

大船渡市スポーツ施設整備 基本計画 (素案)

令和 2 年 月
大 船 渡 市

目 次

I 計画策定にあたって

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の位置付け
- 3 計画策定の流れ
- 4 計画の期間
- 5 計画の推進体制と進捗管理
- 6 対象施設（14 施設）

II 本市の現状と課題

- 1 現状
 - (1) 人口動態
 - (2) 財政状況
 - (3) スポーツ施設の現状
- 2 課題
 - (1) 施設の老朽化への計画的な対応
 - (2) 市民ニーズへの的確な対応

III スポーツ施設の評価手法（全体）

- 1 評価の基本的な考え方
 - (1) 評価全体の流れ
 - (2) スポーツ施設の現況評価（1 次評価）
 - (3) スポーツ施設の環境評価（2 次評価）

IV スポーツ施設の現況評価（1 次評価）

- 1 評価に関わる基礎情報
- 2 個別施設の方向性に関する評価
 - (1) 安全性・機能性評価
 - (2) 経済性評価
 - (3) 耐震性評価
- 3 施設の整備手法
- 4 現況評価（1 次評価）の結果

V スポーツ施設の環境評価（2 次評価）

- 1 個別施設の基本方針に関する検討
 - (1) 政策優先度の評価
 - (2) 基本方針の決定
- 2 適用手法（基本方針ごとの対応手法）の検討
 - (1) 機能保持
 - (2) 総量コントロール
 - (3) 施設不足の解消
- 3 環境評価（2 次評価）の結果

VI スポーツ施設の評価結果（全体）

VII 個別施設計画

VIII 主要施設の詳細検討

- 1 市営球場の建替え再整備に係る検討について
 - (1) 市営球場の現況と課題
 - (2) 近隣自治体の野球場の状況
 - (3) 建替え再整備の検討の方向性
 - (4) 整備候補地の検討
 - (5) 実施時期の検討
- 2 市民テニスコートの拡張整備に係る検討について
 - (1) 市民テニスコートの現況と課題
 - (2) 近隣自治体のテニスコートの状況
 - (3) 拡張整備の検討の方向性
 - (4) 実施規模の検討
 - (5) 実施時期の検討
- 3 市民体育館の更新に係る検討について
 - (1) 市民体育館の現況と課題
 - (2) 近隣自治体の体育館の状況
 - (3) 施設更新の検討の方向性
 - (4) 実施時期の検討

資料編

- 1 大船渡市スポーツ施設整備基本計画の策定経過
- 2 大船渡市スポーツ推進計画等庁内検討委員会
- 3 大船渡市スポーツ推進審議会
- 4 大船渡市スポーツ施設整備検討委員会
- 5 大船渡市スポーツ施設整備基本計画検討委員会
- 6 大船渡市スポーツ施設整備に係る検討結果報告書
- 7 施設個票

I 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

スポーツは、人々に大きな喜びや感動、活力をもたらし、人生をより豊かにする「世界共通の文化」です。その中において、スポーツ施設は、快適な競技環境やスポーツを楽しむ人々の満足感、達成感に直結する大きな役割を担っており、その重要性は日々増しています。

本市では、令和2年2月に策定した「大船渡市スポーツ推進計画」（以下「推進計画」という。）の中で、市民ニーズに応じたスポーツ環境の整備・充実を基本施策の一つとして掲げ、将来にわたる人口の減少やニーズの変化、財政状況等を踏まえながら、スポーツ施設の計画的な整備に努めることとしています。加えて、近隣自治体との連携による機能補完・相互利用に留意しつつ、スポーツ施設環境の充実を図ることは、にぎわいあるまちづくり推進のための重要な取組みの一つと考えています。

市民の多様なニーズを踏まえ、望ましいスポーツ環境を持続的に提供するためには、スポーツ施設の現状と課題を把握し、中・長期的な視点から整備方針を明確にした上で、施設の適正な配置・管理を図る必要があります。

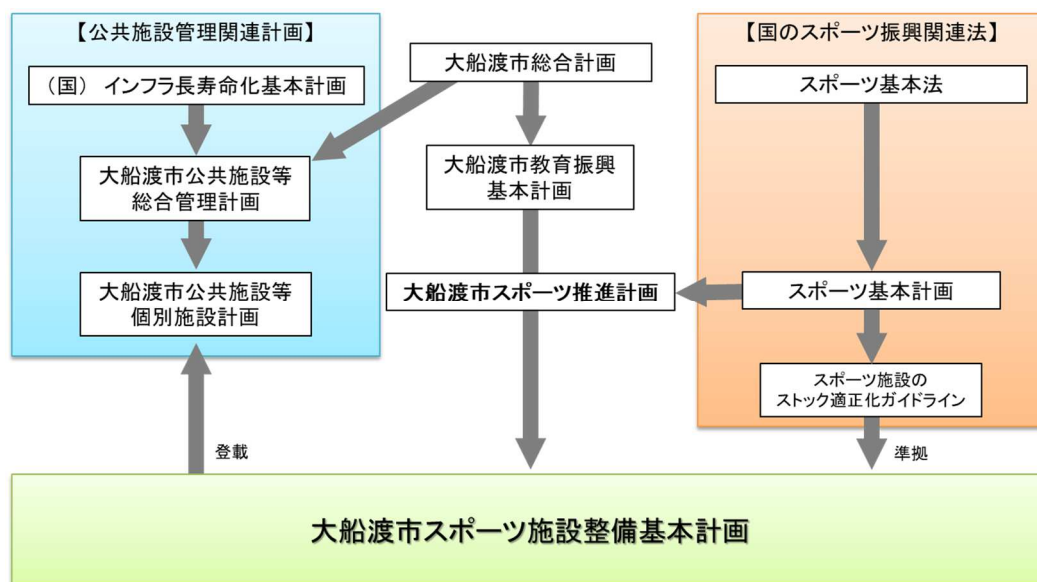
こうしたことから、国の「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン」（平成31年4月一部改訂）（以下「ストック適正化ガイドライン」という。）に基づき、これからのスポーツ施設のあり方や整備の必要性について考え方を整理し、将来を見据えた効果的、効率的な施設マネジメントの推進に資するため、「大船渡市スポーツ施設整備基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定するものです。

2 計画の位置付け

本計画は、推進計画で定められた3つの基本方針のうち、基本方針3「市民ニーズに応じたスポーツ環境の整備・充実」に基づき、スポーツ施設整備に関する具体的な内容を示す個別計画になります。

また、図1のとおり、国のスポーツ振興関連法と公共施設管理関連計画にも関係するものです。

図1 計画の位置付けと他の計画との関連性



3 計画策定の流れ

推進計画の基本方針等はもとより、令和元年度に大船渡市スポーツ施設整備検討委員会が取りまとめた「大船渡市スポーツ施設整備に係る検討結果報告書」（以下「報告書」という。）等を踏まえつつ、基本計画を策定します。

大船渡市スポーツ推進計画（抄）

基本方針3 市民ニーズに応じたスポーツ環境の整備・充実

基本施策(2) スポーツ施設・設備の整備・充実

- 将来にわたる人口の減少やニーズの変化、財政状況などを踏まえながら、施設・設備の計画的な整備に努めます。
- 既存のスポーツ施設については、長寿命化への対応を基本とし、利用者の安全性や利便性を考慮し、必要に応じて計画的に修繕、改修を行うとともに、附帯設備の整備・充実、競技種目ごとに規格に沿った整備に努めます。
- 施設の更新にあたっては、必要性はもとより、整備費や将来にわたる維持管理費などの財政負担を十分考慮し、公共施設等総合管理計画等との整合を図りながら検討を進めます。
- 今後、生涯スポーツを推進していく上で、障がいの有無や年齢、性別等に関わらず様々な人々が利用しやすい施設が求められています。国の支援制度等を有効に活用し、バリアフリー化など計画的な整備を推進します。

図2 計画策定の流れ

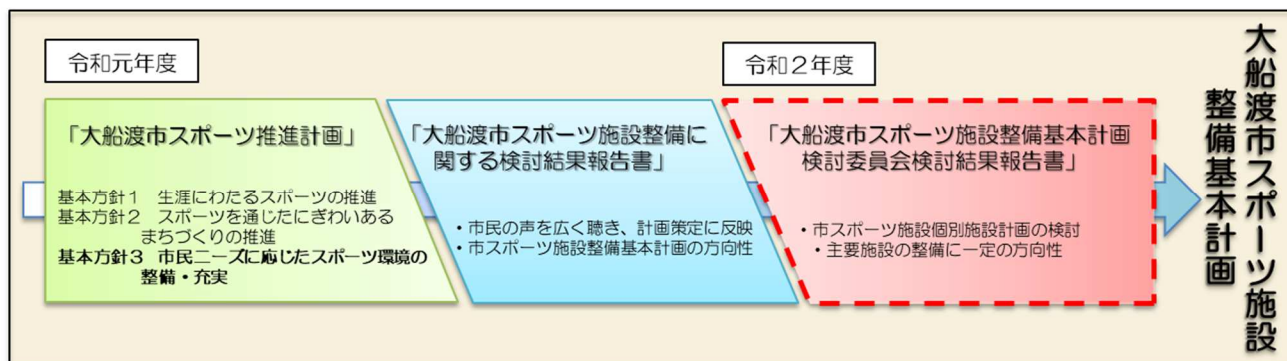
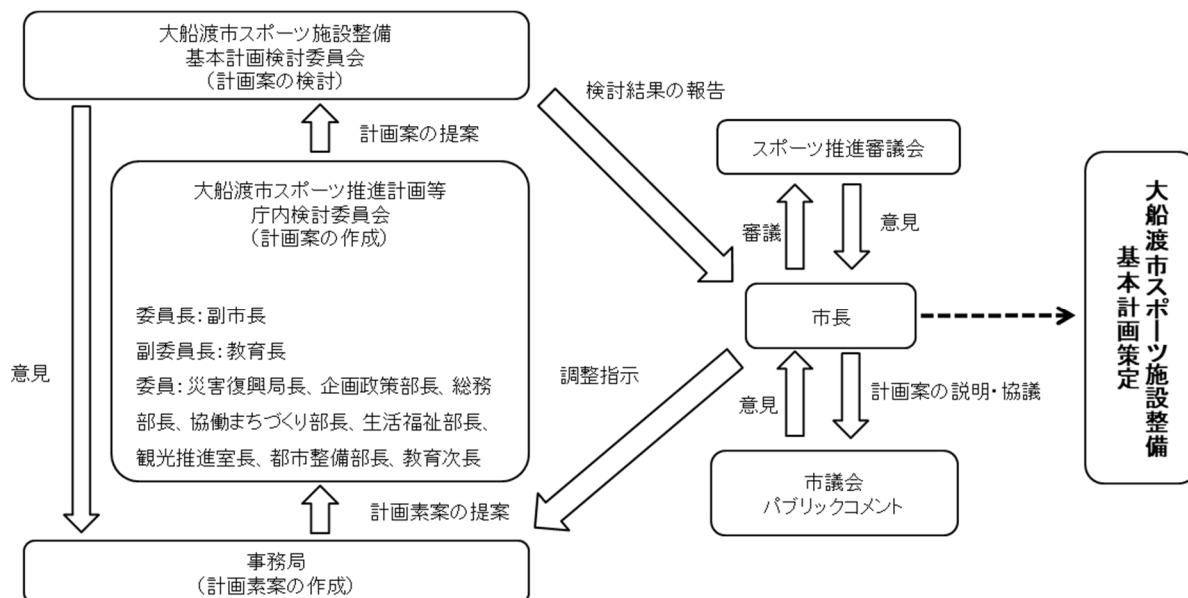


図3 策定体制図



4 計画の期間

本計画の期間は、令和2年度から令和10年度までの9年間とし、令和5年度までの4年間を前期、令和6年度以降の5年間を後期とします。

なお、スポーツを取り巻く環境の変化に適切に対応し、施策の見直し等に結び付けるため、計画の進捗状況や社会情勢の変化等に応じて、柔軟に見直しを行うとともに、大船渡市総合計画実施計画や大船渡市公共施設等総合管理計画（以下「総合管理計画」という。）との整合を図ります。

5 計画の推進体制と進捗管理

本計画の推進に当たっては、市民ニーズを的確に捉え、それらを計画的な整備につなげることが必要です。大船渡市スポーツ推進審議会等を通じて市民の意向を反映するとともに、スポーツ関係団体等関係機関と連携を図りながら、計画の推進を図ります。

また、進捗管理に当たっては、毎年度、大船渡市スポーツ推進審議会において、計画の実施状況等について評価・検証を行うとともに、市の広報紙やホームページ等を活用して、関連情報を随時公表しながら、市民や関係団体からの意見を施策に反映します。

6 対象施設（14施設）

本計画の対象は、大船渡市スポーツ施設条例に定めるスポーツ施設、大船渡市山村広場（大船渡市山村広場設置管理に関する条例）及び盛川河川敷公園（大船渡市都市公園の設置告示）とし、表1（4ページ）のとおり、「グラウンド」、「体育館」、「テニスコート」及び「その他施設」の4つに区分して整理します。

なお、体育センターについては、条例上スポーツ施設に位置付けられていますが、会議室としての貸出しのみで、市民がスポーツを行う施設ではないため、本計画の対象外とします。

表 1 市内スポーツ施設一覧

類型	施設名	所在地
グラウンド (7)	市営球場	末崎町字大田 142 番地 10
	田中島グラウンド	盛町字田中島 21 番地 5
	赤崎グラウンド	赤崎町字生形 58 番地 3
	三陸総合運動公園	三陸町綾里字黒土田 56 番地
	山村広場	三陸町越喜来字杉下 56 番地 4
	盛川河川敷公園多目的広場	盛町 盛川右岸
	盛川河川敷公園少年野球場	盛町 盛川右岸
体育館 (3)	市民体育館	盛町字中道下 1 番地 1
	三陸B&G海洋センター	三陸町綾里字黒土田 56 番地
	三陸体育館	三陸町吉浜字扇洞 162 番地
テニスコート (2)	市民テニスコート	盛町字田中島 13 番地 6
	三陸総合運動公園テニスコート	三陸町綾里字黒土田 56 番地
その他施設 (2)	市民弓道場	盛町字田中島 13 番地 6
	三陸B&G海洋センタープール	三陸町綾里字黒土田 56 番地

※類型の（ ）は施設数

また、市民のスポーツ・レクリエーション活動の場の提供を目的として、表 2 のとおり市内小中学校の学校体育施設を開放しています。これらの学校体育施設は、学校教育法やスポーツ基本法において、学校教育に支障のない範囲で施設を公共のために供することが求められており、学校施設としてだけでなく、地域のスポーツ施設としての役割も有しています。

本計画の対象外施設ですが、学校体育施設の整備充実を図ることは、生涯スポーツの振興を図る上で重要なことになります。

表 2 学校開放事業実施校一覧（令和 2 年度現在）

小学校		中学校
盛小学校	日頃市小学校	第一中学校
大船渡小学校	大船渡北小学校	大船渡中学校
末崎小学校	綾里小学校	末崎中学校
赤崎小学校	越喜来小学校	赤崎中学校
猪川小学校	吉浜小学校	中学校 4校
立根小学校	小学校 11 校	
計 15 校		

Ⅱ 本市の現状と課題

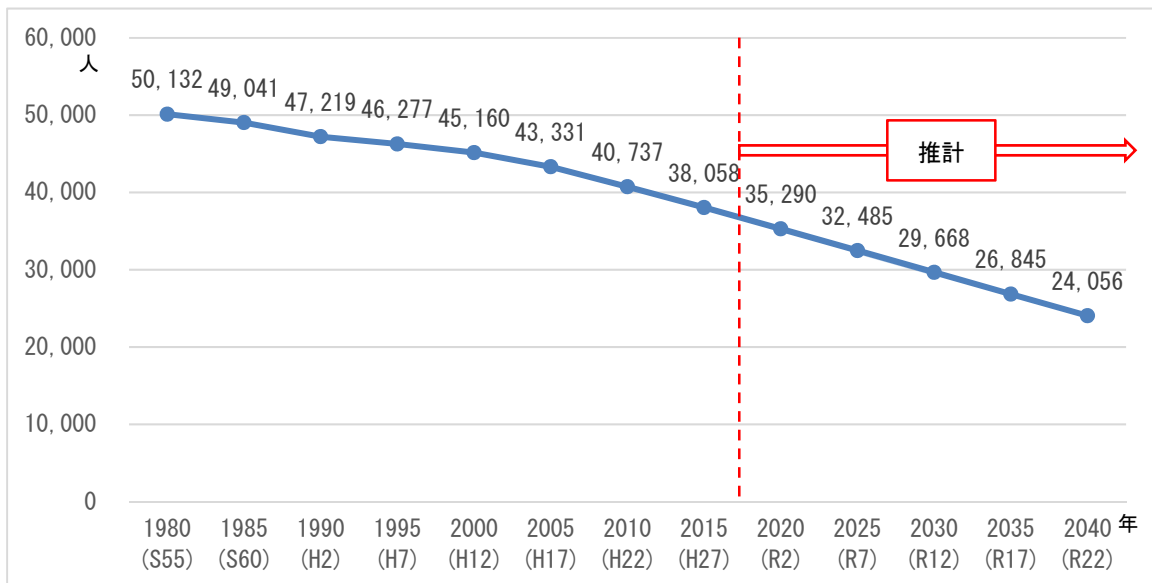
1 現状

(1) 人口動態

大船渡市人口ビジョン(改訂版)によると、本市の人口は、図4のとおり減少傾向にあり、平成27年の国勢調査では4万人を割り、令和元年10月1日現在で35,639人となっています。

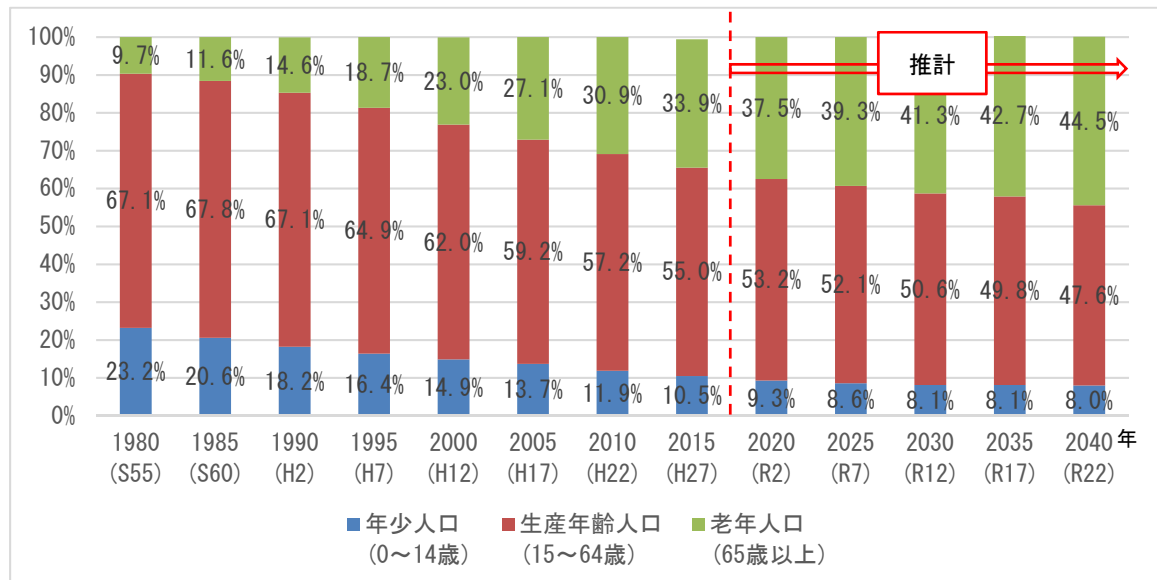
年齢別人口の割合については、図5のとおり、年少人口(0～14歳)及び生産年齢人口(15～64歳)が減少を続けており、今後も減少傾向が続くと予測されます。一方で、老年人口(65歳以上)の割合は増加し続けており、令和22年度には44.5%に達すると見込まれています。

図4 総人口の推移と将来見通し(各年10月1日現在)



資料: 国勢調査、大船渡市人口ビジョン(改訂版)

図5 年齢別人口割合の推移と将来見通し(各年10月1日現在)



資料: 国勢調査、大船渡市人口ビジョン(改訂版)

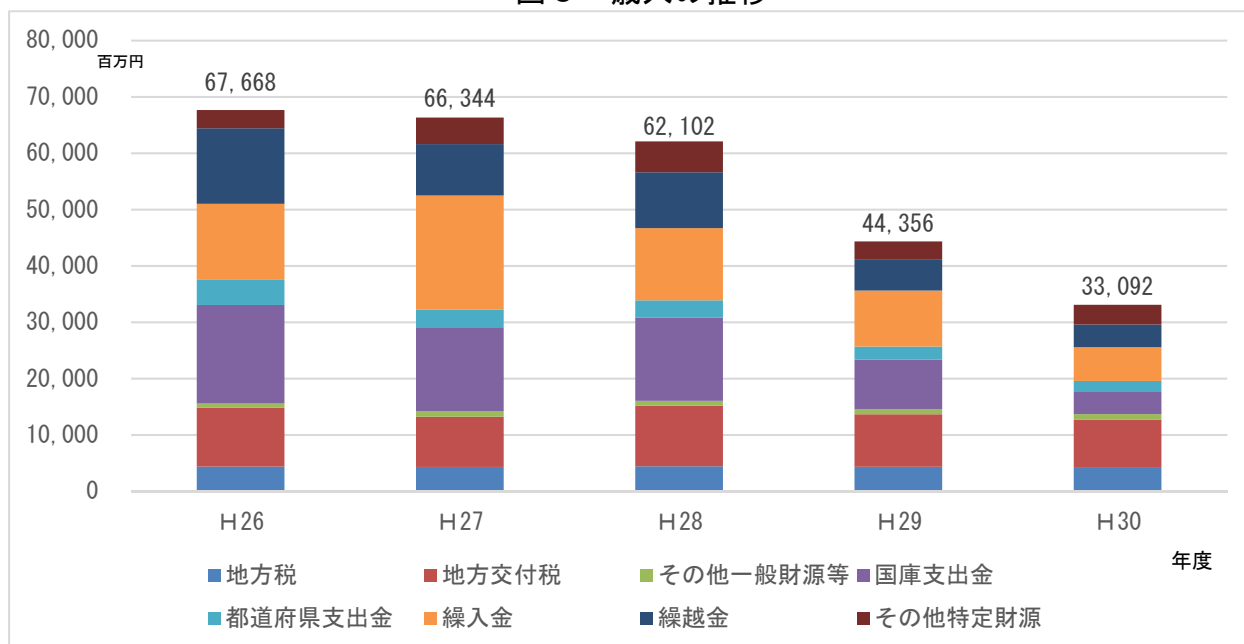
(2) 財政状況

本市の歳入の推移を見ると、図6のとおり、平成26年度以降、復興関連事業の収束等によって減少傾向が続いており、平成30年度は平成26年度と比較して51.1%減少の33,092百万円と、ほぼ半減しています。

また、歳出については、図7のとおり、平成28年度まではほぼ横ばいで推移していたものの、平成29年度以降減少し、平成30年度と平成26年度を比較すると、27,238百万円、およそ46.5%減少しています。

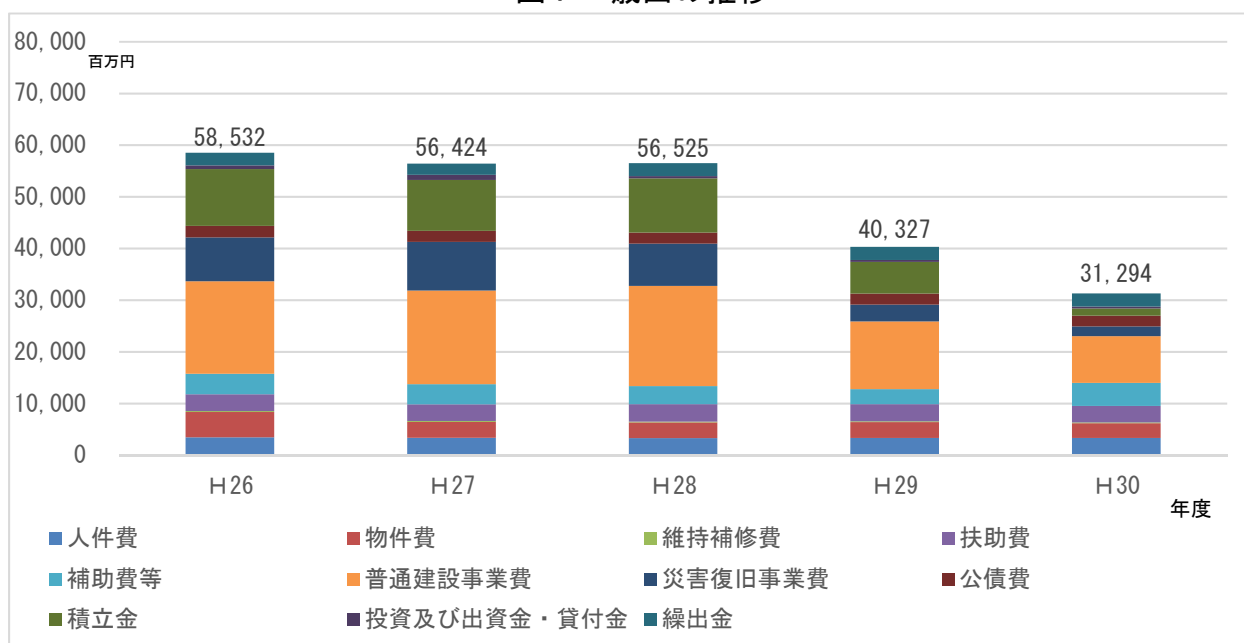
令和2年度で復興関連事業が終了することによって、歳入と歳出ともに、今後も減少が続くものと考えられます。

図6 歳入の推移



資料:総務省 HP 市町村別決算状況調

図7 歳出の推移



資料:総務省 HP 市町村別決算状況調

(3) スポーツ施設の現状

本市のスポーツ施設は、図8のとおり、市民体育館周辺に体育センターや市民テニスコート、市民弓道場、田中島グラウンド、盛川河川敷公園多目的広場・少年野球場等の主要なスポーツ施設が集積しているほか、三陸町綾里地区には、複数の施設（三陸B&G海洋センター・プール、三陸総合運動公園）が立地しています。

図8 市内スポーツ施設配置図

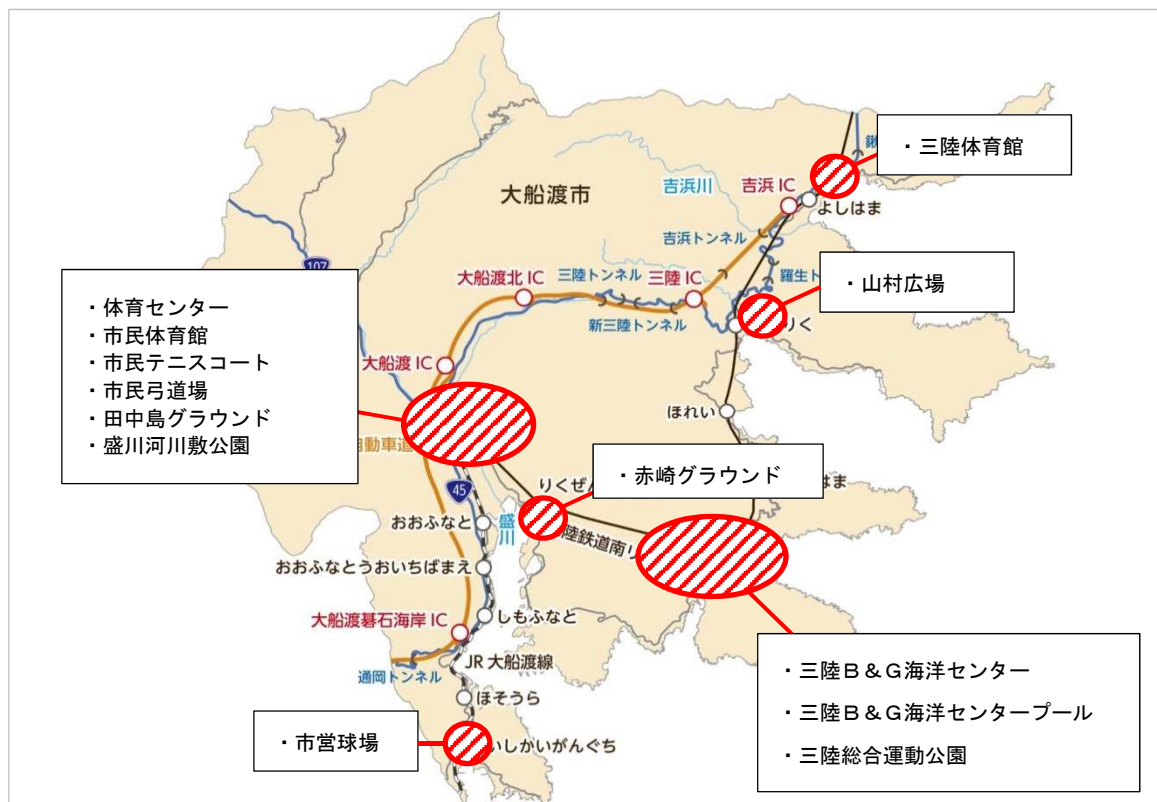


図9（8ページ）の市内スポーツ施設の利用件数については、東日本大震災発生以降、被災した施設の復旧に伴い増加したものの、平成28年度の11,646件をピークに、以降は減少し、令和元年度は9,460件と、10,000件を下回りました。

図10（8ページ）の市内スポーツ施設の利用者数については、減少傾向が続いていましたが、令和元年度は158,027人と、平成27年度以降で初めて、前年度の利用実績を上回りました。これは、赤崎グラウンドの利用者数が、人工芝舗装やクラブハウス建設を実施した平成29年度以降に増加を続けていることや、近年、減少傾向にあった市民体育館や市営球場の利用者数が、前年度実績を上回ったことによるものです。

図9 市内スポーツ施設利用件数

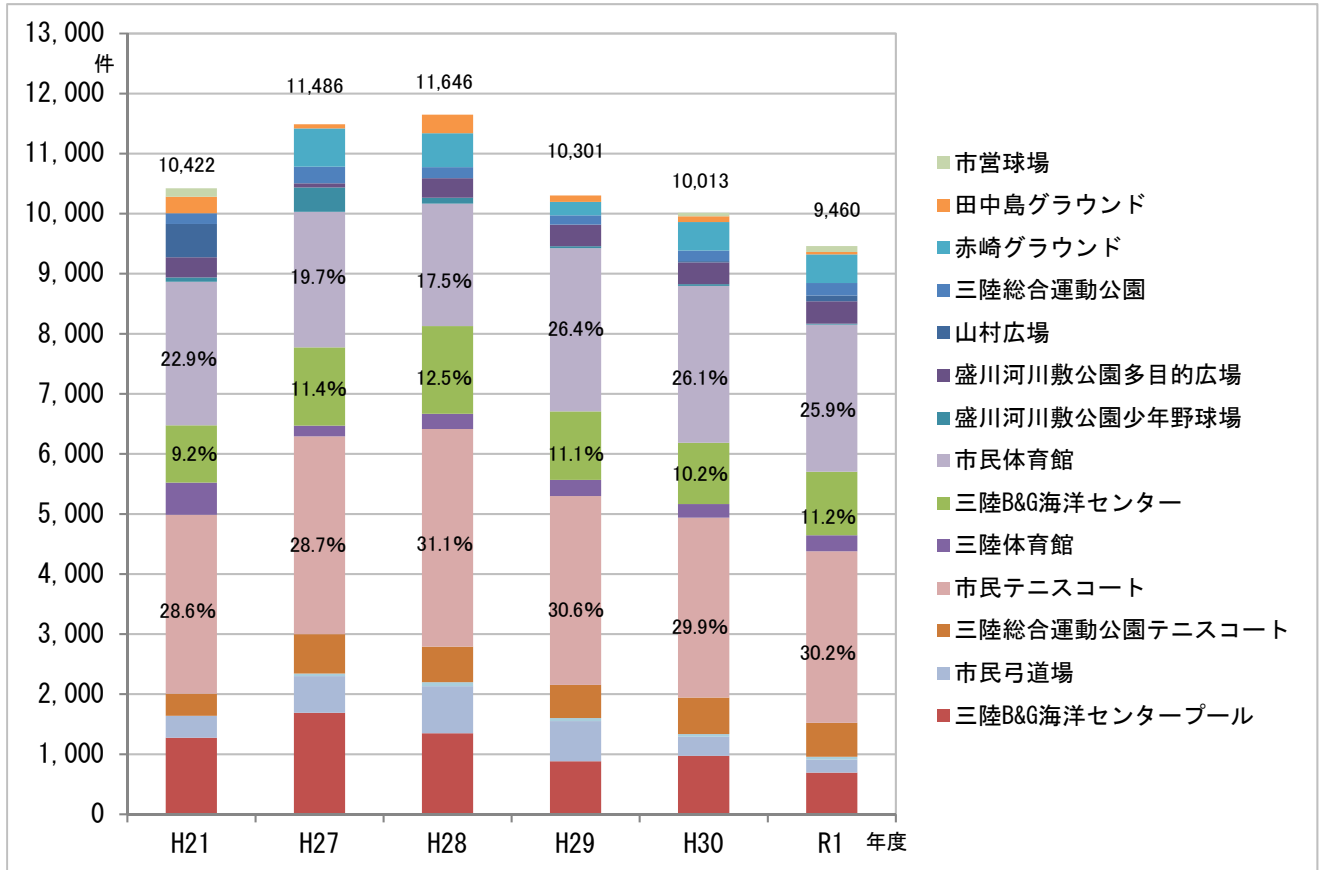
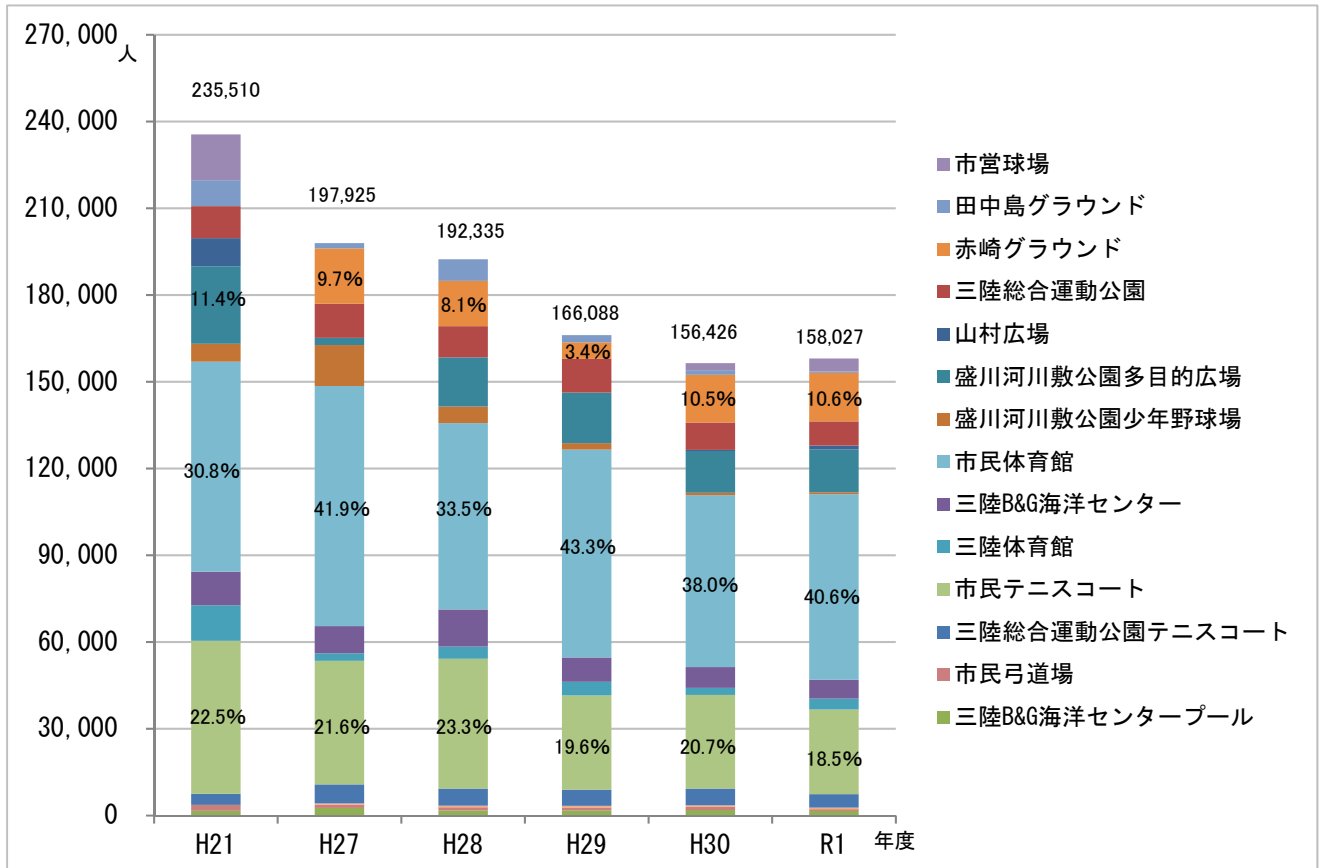


図10 市内スポーツ施設利用者数



グラウンドについて、令和元年度実績を見ると、利用件数は、ほとんどの施設で前年度からほぼ横ばいで推移しています。

利用者数は、利用件数と同じく、多くの施設で横ばいですが、三陸総合運動公園が8,360人と、前年度から1,093人減少しています。一方で、市営球場は4,455人と、前年度から2,000人以上増加しています。

図 11 グラウンド利用件数の推移

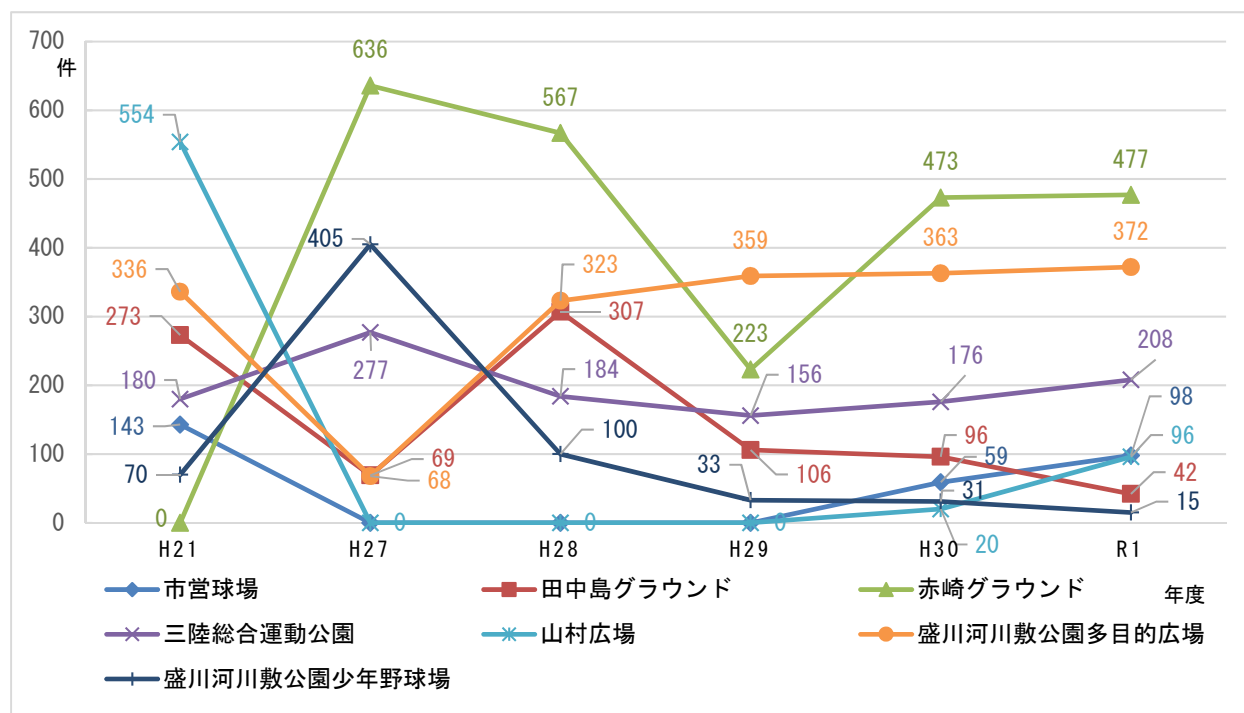
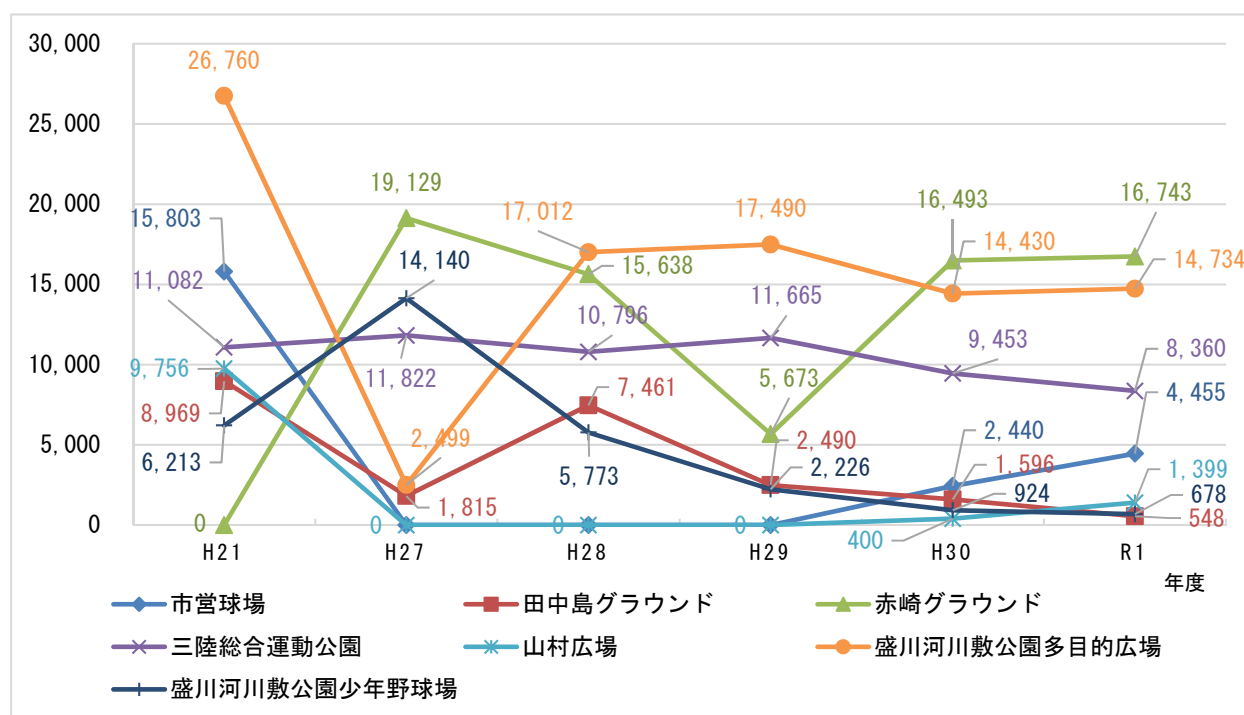


図 12 グラウンド利用者数の推移



体育館について、令和元年度実績において、利用件数は、市民体育館が対前年度比で6.2%減少したものの、他の施設については、ほぼ横ばいで推移しています。

利用者数は、三陸B&G海洋センターと三陸体育館が横ばいですが、市民体育館については、前年度から微増し、64,136人となっています。これは、県民体育大会の開催による市外利用者の増加や、個人から団体へと利用形態が移行しつつあること等によるものです。

図 13 体育館利用件数の推移

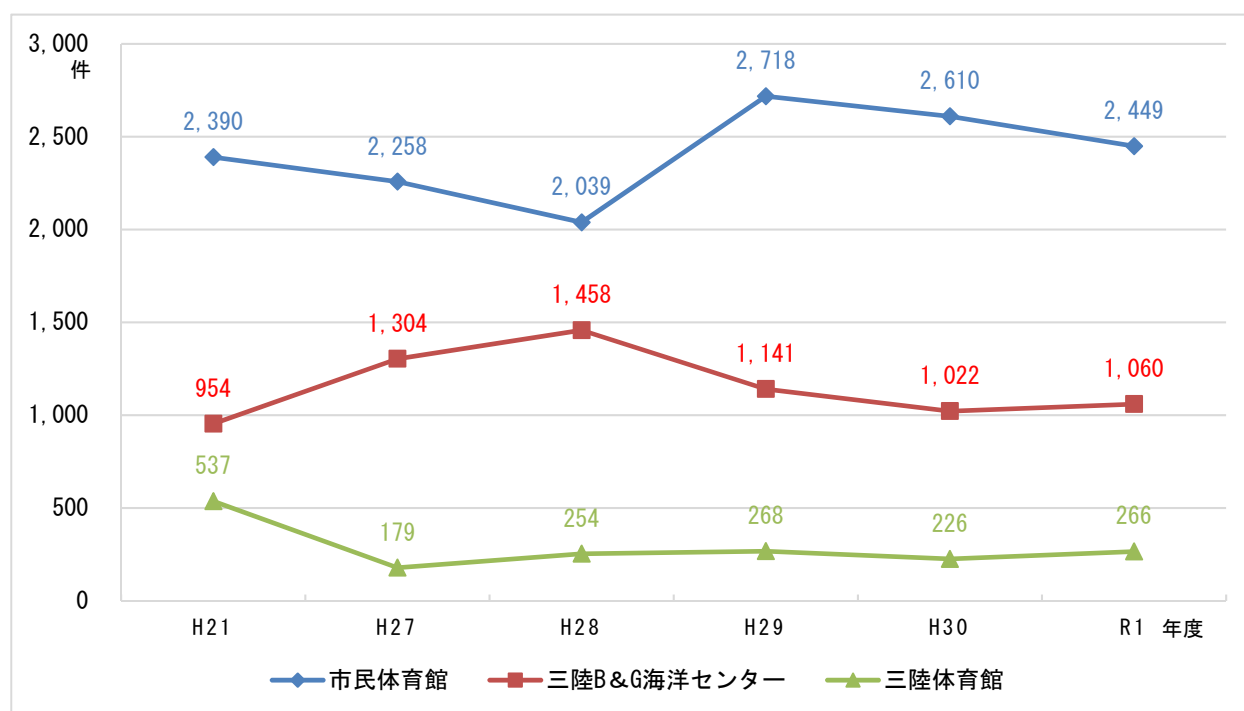
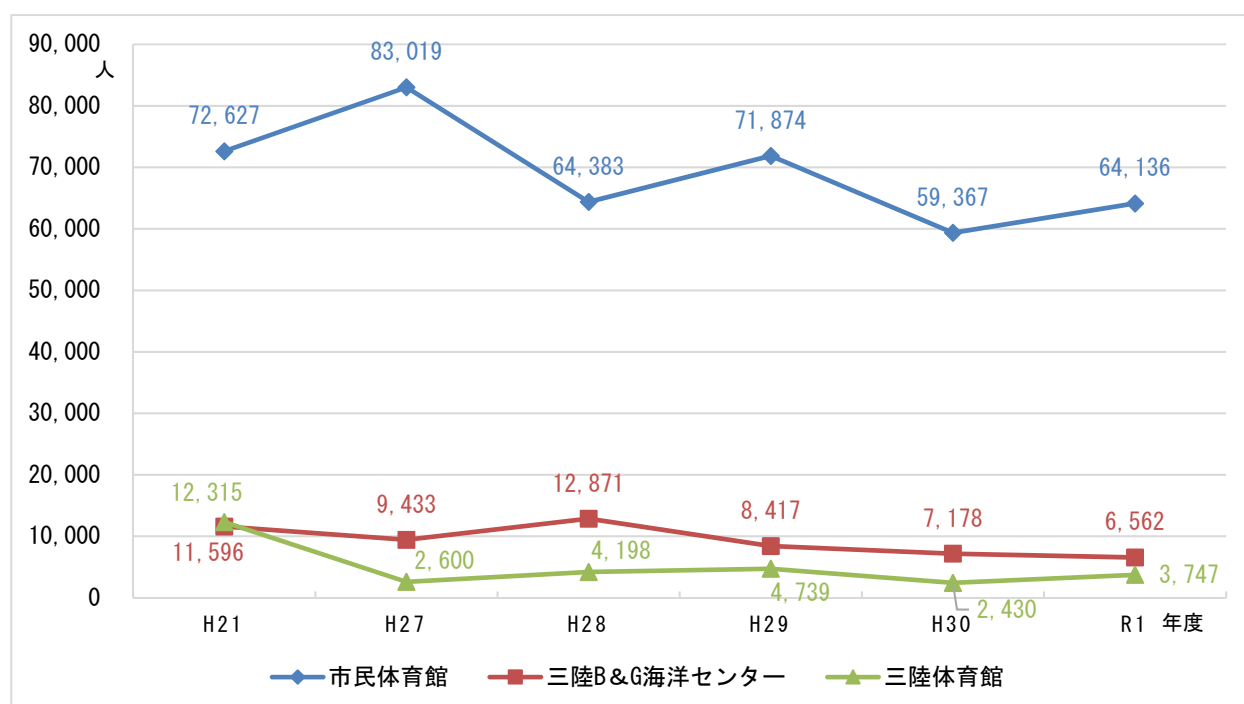


図 14 体育館利用者数の推移



テニスコートについて、三陸総合運動公園テニスコートは、平成 27 年度以降利用件数、利用者数ともに横ばいで推移していますが、市民テニスコートは、利用件数、利用者数ともに、平成 28 年度以降は減少傾向にあります。

図 15 テニスコート利用件数の推移

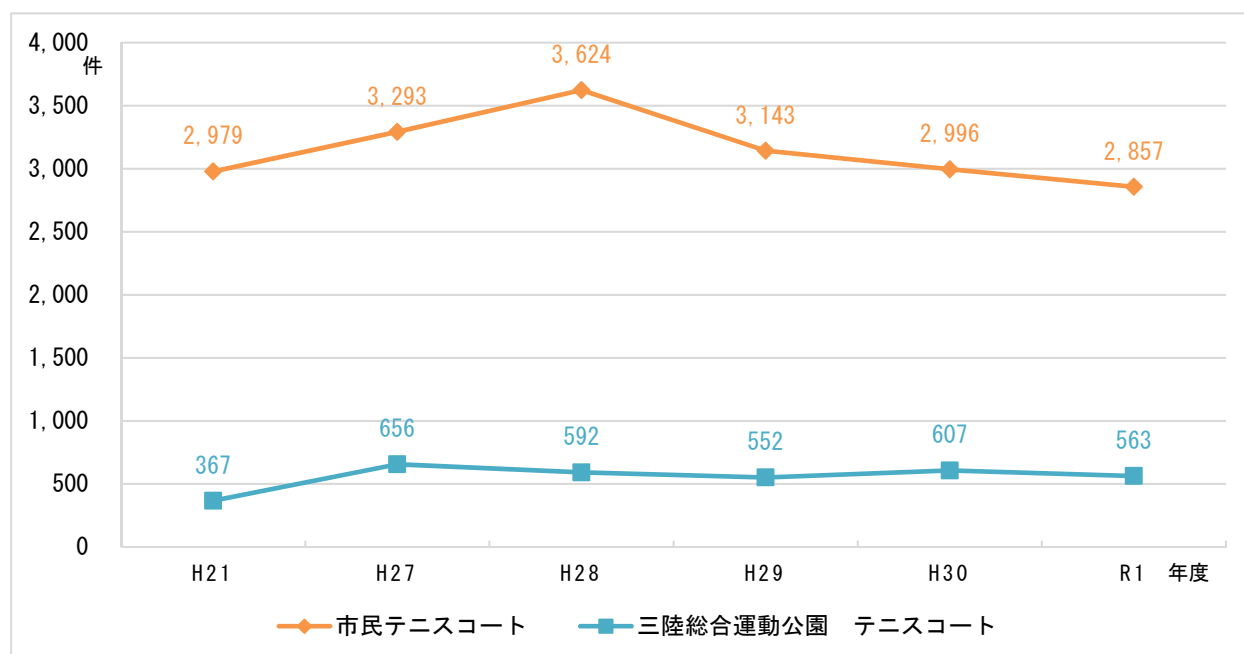
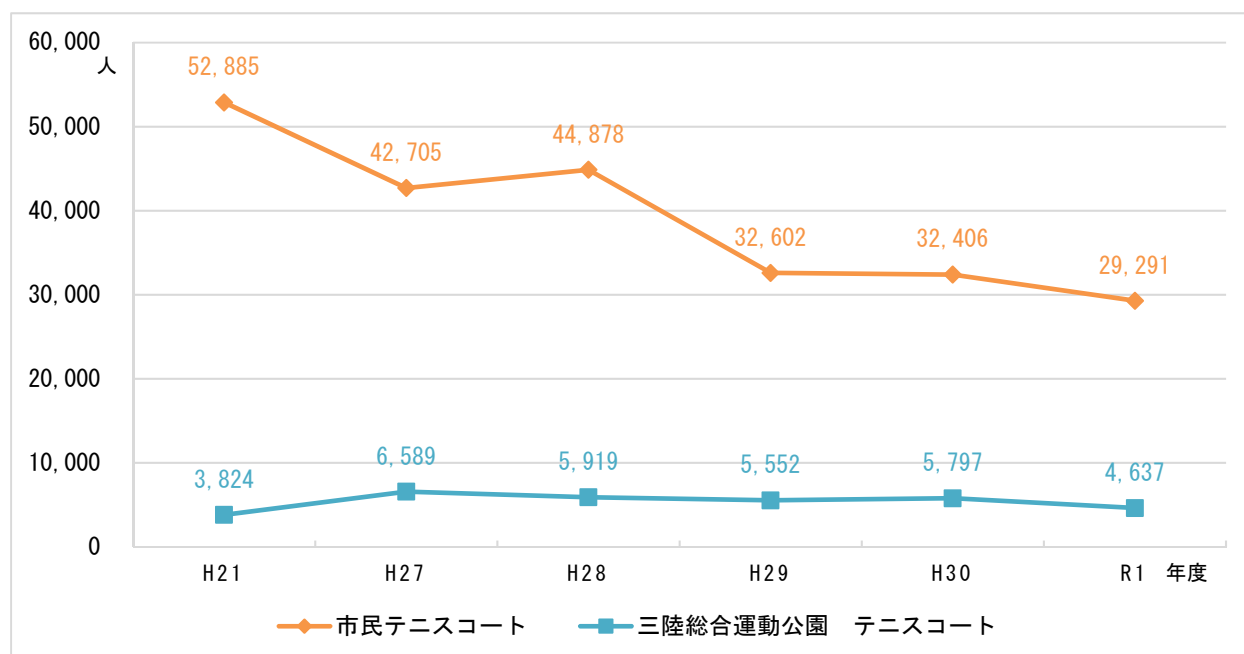


図 16 テニスコート利用者数の推移



その他施設について、令和元年度実績を見ると、利用件数は、三陸B＆G海洋センタープールが平成27年度と比較して59%減少、市民弓道場についても、平成28年度と比較して72.4%減少する等、他のスポーツ施設よりも減少傾向が大きく表れています。

利用者数は、三陸B＆G海洋センタープール、市民弓道場ともに、平成28年度以降ほぼ横ばいで推移していたものの、令和元年度は、いずれも前年度の実績を下回っています。

図17 その他施設利用件数の推移

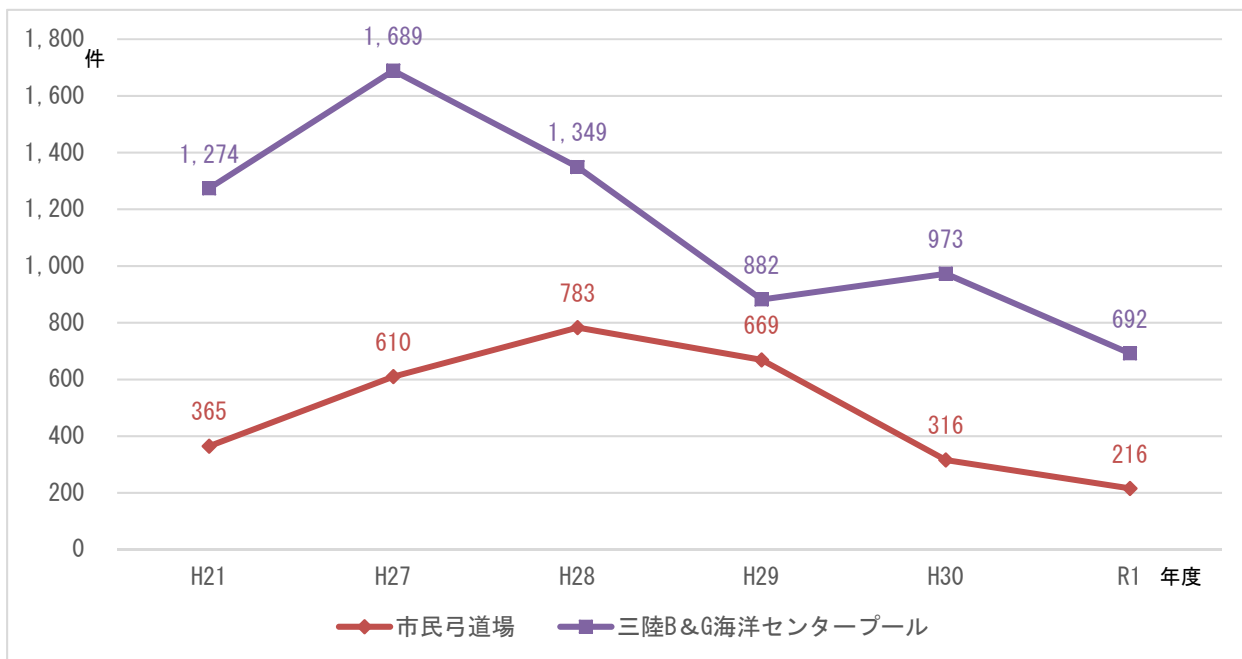
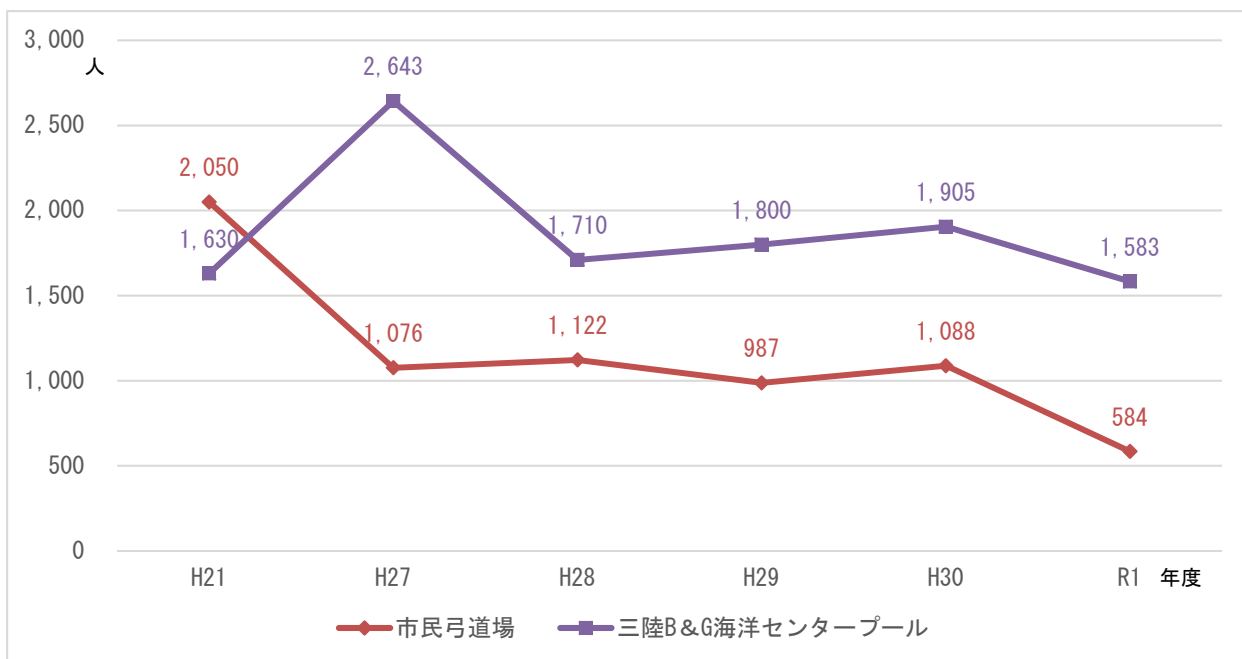


図18 その他施設利用者数の推移



2 課題

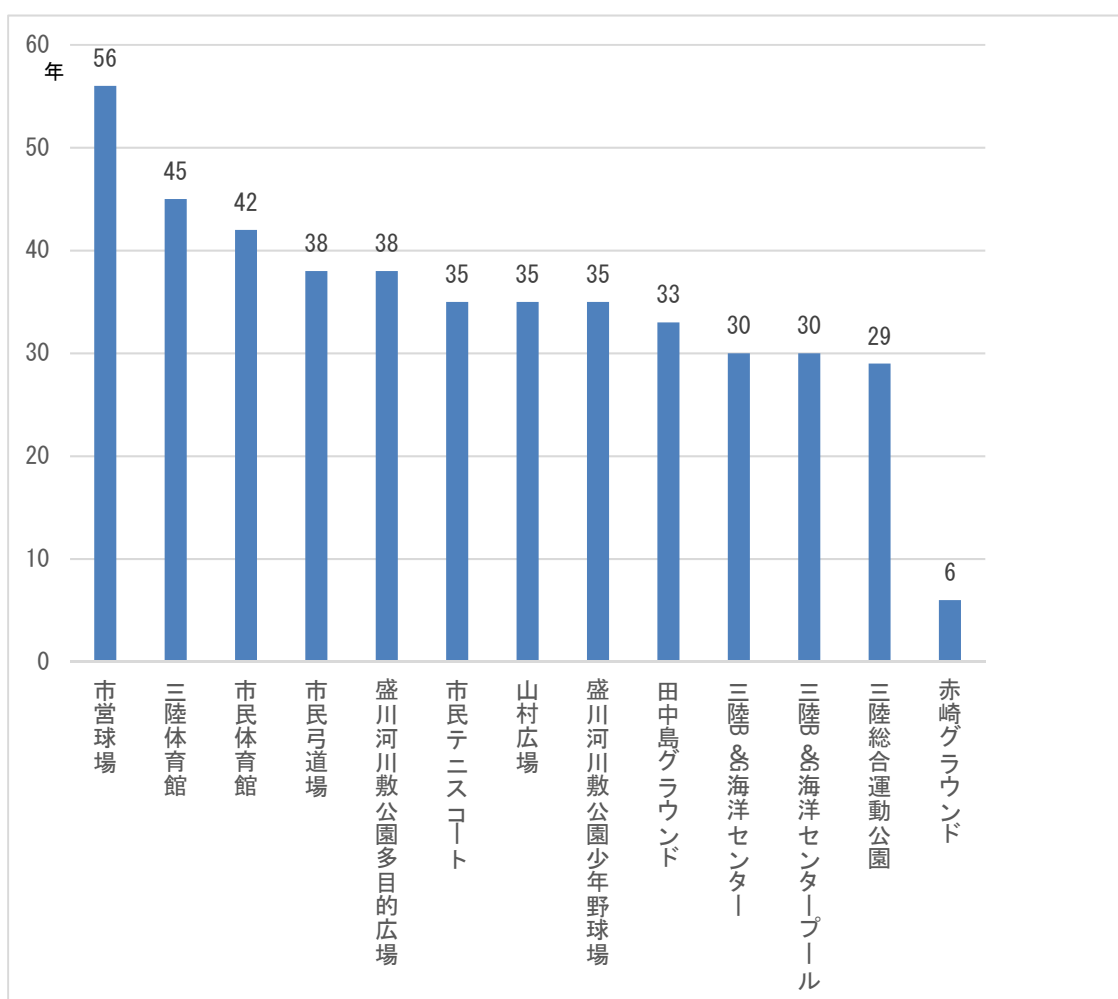
本市のスポーツ施設の整備を図る上での課題として、大きく次の2点の課題が挙げられます。

(1) 施設の老朽化への計画的な対応

図19のとおり、市内スポーツ施設は、令和元年度末現在で、整備から50年以上が経過した市営球場を始め、そのほとんどが30年以上経過しており、全体として老朽化が進行しています。

今後、厳しい財政運営が見込まれる中、各種スポーツ施設の整備に当たっては、経年劣化の進行を踏まえながら、その必要性を十分検討するとともに、整備費や将来にわたる維持管理費等財政負担を検証した上で、計画的な整備を図る必要があります。

図19 市内スポーツ施設建築経過年数（令和元年度末現在）

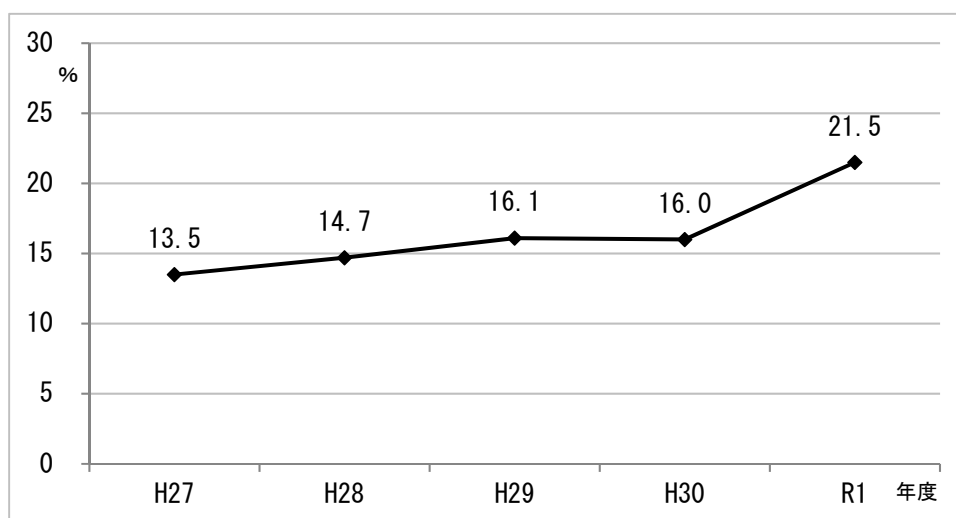


(2) 市民ニーズへの的確な対応

市では毎年度、市内在住の18歳以上の男女2,000人を対象に、市民意識調査を実施しています。

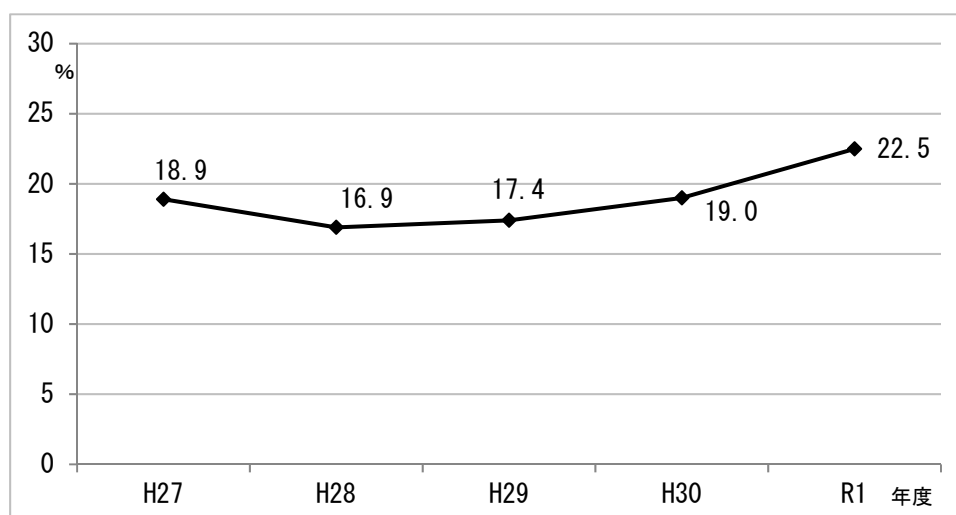
スポーツ施設整備の満足度に関する項目として、「スポーツ施設が整備されているか」との問いに対し、令和元年度では、図20のとおり、21.5%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えています。

図20 スポーツ施設整備の満足度



また、「スポーツ・レクリエーション施設が利用しやすいか」との問いに対しては、図21のとおり、22.5%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えています。

図21 スポーツ施設利用の満足度



スポーツ施設に関する市民の満足度は、若干の上昇傾向にあるものの高いとは言えず、既存施設の機能向上等に資する整備を計画的に実施し、多様化する市民ニーズに的確に応える必要があります。

Ⅲ スポーツ施設の評価手法（全体）

1 評価の基本的な考え方

計画策定に当たり、スポーツ庁が、スポーツ施設に関する個別施設計画の策定のための手引きとして定めた、ストック適正化ガイドライン※に基づき、市内スポーツ施設を多角的に評価します。

本市が保有するスポーツ施設は、施設の老朽化や厳しさを増す財政状況を背景に、安全な施設の提供が困難になりつつあるほか、少子高齢社会にあって、求められる施設の量や質が変化することが予想されます。

こうした課題に的確に対応することを念頭に、個別施設計画の検討の前提となる施設評価を行いました。

※ スポーツ施設のストック適正化ガイドラインとは

スポーツ基本法第12条に定めるスポーツ施設の整備に関する理念を念頭に、地方公共団体が、安全なスポーツ施設を持続的に提供し、身近にスポーツに親しむことのできる環境を整備できるよう、その考え方を整理した指針。

スポーツ基本法(抄)

(スポーツ施設の整備等)

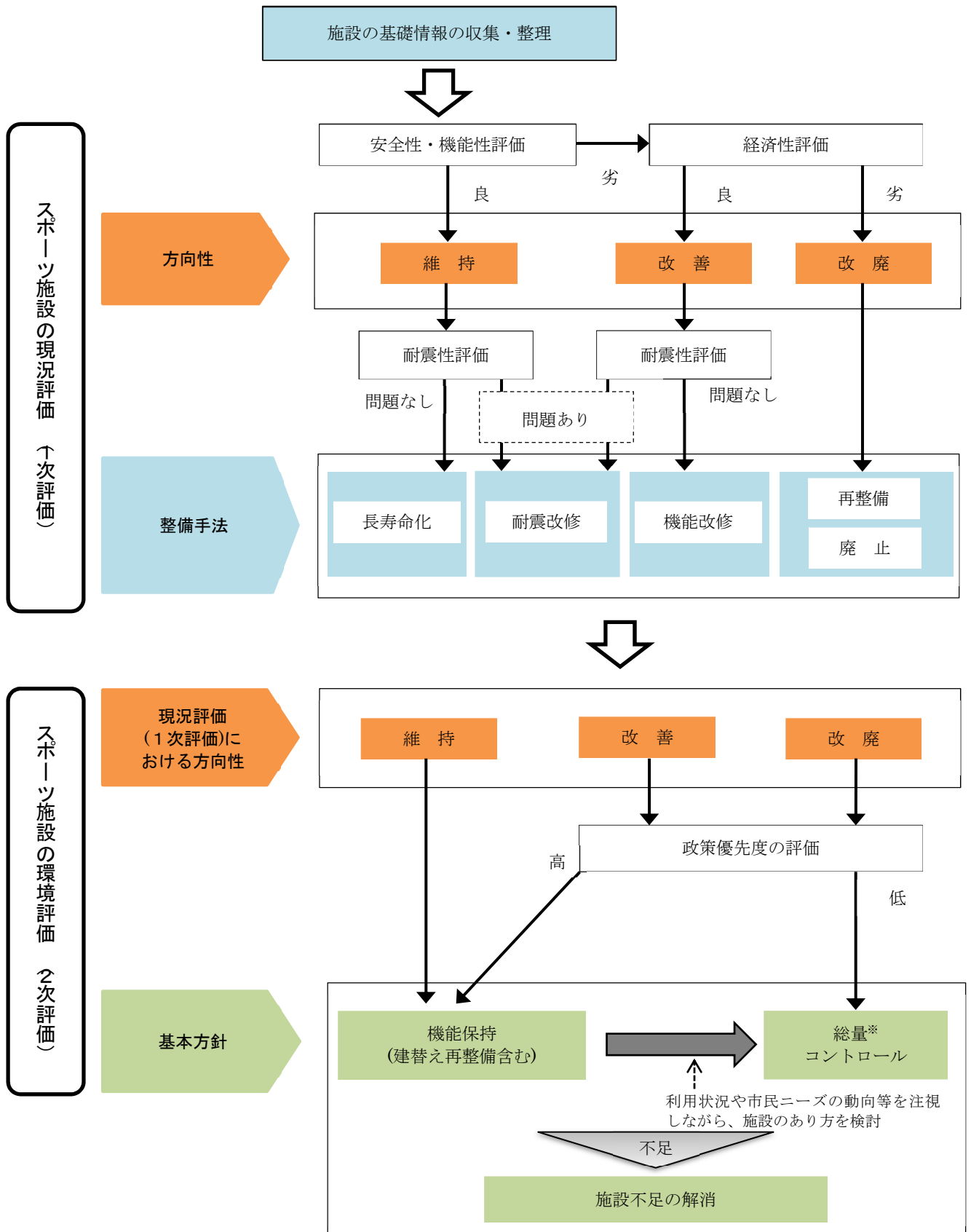
第12条 国及び地方公共団体は、国民が身近にスポーツに親しむことができるようにするとともに、競技水準の向上を図ることができるよう、スポーツ施設（スポーツ設備を含む。）の整備、利用者の需要に応じたスポーツ施設の運用の改善、スポーツ施設への指導者等の配置その他の必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

2 スポーツ施設を整備するに当たっては、当該スポーツ施設の利用の実態等に応じて、安全の確保を図るとともに、障害者等の利便性の向上を図るよう努めるものとする。

(1) 評価全体の流れ

ストック適正化ガイドラインに基づき、図 22 のとおり評価しました。

図 22 全体的な評価の流れ



※ 将来的に維持管理し続けることができない施設について、廃止や転用の時期、方法について検討することをいいます。

(2) スポーツ施設の現況評価（１次評価）

本市が保有する個々のスポーツ施設について、安心・安全・快適な利用に必要な施設の性能を把握するため、基礎情報を収集・整理し、その情報に基づき、個別施設の方向性及び整備手法につながる評価を、簡易的に行いました。

表３ 現況評価（１次評価）における評価項目

評価項目	対象
安全性・機能性	全てのスポーツ施設（14 施設）
経済性	安全性・機能性評価において、「劣」と評価された施設
耐震性	安全性・機能性評価又は経済性評価で「良」と評価された施設 ※屋外施設で一部対象外施設あり

(3) スポーツ施設の環境評価（２次評価）

施設の現況評価（１次評価）の方向性により、施設の提供・利用等の観点から政策的な優先度による評価を行い、個別施設の基本方針を定めました。

表４ 環境評価（２次評価）における評価項目

評価項目	対象
政策優先度	現況評価（１次評価）の方向性が、「改善」「改廃」とされた施設 ※ 現況評価（１次評価）で「維持」と評価された施設については、政策優先度を評価することなく基本方針を定めます。

Ⅳ スポーツ施設の現況評価（１次評価）

1 評価に関わる基礎情報

個々のスポーツ施設について、安心・安全・快適な利用を検証する上で必要な基礎情報を整理すると、表５のとおりとなります。

新耐震基準が導入された昭和 56 年以前に整備した施設のうち、市民体育館は、平成 28 年度に耐震診断及び耐震改修を実施しており、耐震性に問題はありませんが、三陸体育館については、耐震診断が未実施となっています。

表５ 市内スポーツ施設基礎情報（令和元年度末現在）

類別	施設名	整備 年次	経過 年数	構造	延床 面積	耐震 診断	※1					地域 防災
							利用状況			収入 (千円)	維持 管理費 (千円)	
							件数	人数	1件 あたり			
グラウンド (7)	市営球場	S39 年	56 年	RC 造	12,507 m ²	対象外	98	4,455	45.5	106	3,520	
	田中島グラウンド	S62 年	33 年	—	4,894 m ²	対象外	42	548	13.0	54	1,502	
	赤崎グラウンド	H26 年	6年	S 造	11,592 m ²	不要	477	27,743	58.2	1,504	3,967	
	三陸総合運動公園	H3 年	29 年	—	15,480 m ²	不要	208	8,360	40.2	331	6,569	ヘリポート
	山村広場	S60 年	35 年	—	14,800 m ²	不要	96	1,399	14.6	27	4,108	
	盛川河川敷公園 多目的広場	S57 年	38 年	—	10,762 m ²	対象外	372	14,734	39.6	19	4,914	
	盛川河川敷公園 少年野球場	S60 年	35 年	—	7,540 m ²	対象外	15	678	45.2	—※2		ヘリポート
体育館 (3)	市民体育館	S53 年	42 年	SRC 造	3,878 m ²	H28 済	2,449	64,136	26.2	1,399	11,995	第二避難場所
	三陸B&G海洋センター	H2 年	30 年	RC 造	1,919 m ²	不要	1,060	6,562	6.2	197	6,384	
	三陸体育館	S50 年	45 年	RC 造	992 m ²	未実施	266	3,747	14.1	1	466	
テニスコート (2)	市民テニスコート	S60 年	35 年	S 造	3,392 m ²	不要	2,857	29,291	10.3	2,057	1,555	
	三陸総合運動公園 テニスコート	H3 年	29 年	—	1,592 m ²	対象外	563	4,637	8.2	—※3	—※4	
その他施設 (2)	市民弓道場	S57 年	38 年	S 造	791 m ²	不要	216	584	2.7	30	429	
	三陸B&G海洋 センタープール	H2 年	30 年	S 造	1,013 m ²	対象外	692	1,583	2.3	—※5		

※ 1 の利用状況、収入、維持管理費については、令和元年度の実績である。

※ 2 については、盛川河川敷公園多目的広場に含まれる。

※ 3 については、三陸総合運動公園に含まれる。

※ 4、5 については、三陸 B & G 海洋センターに含まれる。

2 個別施設の方向性に関する評価

(1) 安全性・機能性評価

施設の視察調査結果等をもとに、「安全性」、「機能性」、「法令への適合状況」、「スポーツ施設の安全対策」及び「屋外スポーツ施設の状況」の項目ごとの表6の評価基準に基づく評価を、表7の評価の考え方により、安全性・機能性について、「良」又は「劣」の評価を行いました。

評価結果は、表8（21 ページ）のとおりです。

表6 安全性・機能性の評価基準

評価基準	評価
<ul style="list-style-type: none"> 全体的に健全であるもの。 緊急の修繕が必要なく、日常の維持保全で管理するもの。 法定点検等での是正箇所がないもの。 必要な対応がなされているもの。 	A
<ul style="list-style-type: none"> 全体的に健全だが、部分的な劣化が進行しているもの。 緊急の修繕が必要ないが、維持保全での管理の中で、劣化部分について定期的な観察が必要なもの。 法定点検等で是正箇所が確認されたが、対応済み、若しくは対応を予定しているもの。 必要な対応がなされているが、改善の余地があるもの、若しくは対応を予定しているもの。 	B
<ul style="list-style-type: none"> 全体的に劣化が進行しているもの。 現時点では重大な事故にはつながらないが、利用し続けるためには部分的な補修、若しくは更新が必要なもの。 法定点検で是正箇所が報告されたが、未対応、若しくは既に対応しているが、改善されていないもの。 必要な対応がなされているが、改善されていないもの。 	C
<ul style="list-style-type: none"> 全体的に顕著な劣化があるもの。 重大な事故につながる恐れがあり、施設の利用禁止、あるいは緊急な補修、若しくは更新が必要とされるもの。 法定点検での是正報告を長期間放置しているもの。 必要な対応がなされていないもの。 	D

表7 安全性・機能性評価の考え方

考え方	評価
<ul style="list-style-type: none"> 全体的に劣化・不具合等の事象が確認されない。 部分的な劣化・不具合等の事象が確認されるが、緊急性が低い（日常的な保守管理及び経過観察により対応）。 法定点検での是正報告がない、又は是正事項が既に改善されている（改善予定も含む。） スポーツ施設の安全対策がなされている。 	良
<ul style="list-style-type: none"> 全体的な劣化・不具合等又は著しい劣化・不具合等の事象が確認され、全面的な補修若しくは改修が必要である。 劣化・不具合等の事象により重大な事故、施設の利用制限、又は緊急に補修若しくは改善が必要である。 法定点検での是正報告があり、是正が長期間放置されている、又は重大な事故、施設の利用制限が想定される。 重大な事故の恐れがある安全に関する対策が、実施されていない。 	劣

※ 耐用年数の考え方

総合管理計画において、公共建築物における更新（建て替え）までの耐用年数を 60 年と定めていることから、本計画においても、施設の構造に関わらず、耐用年数を一律に 60 年としています。

なお、建築物がなく、グラウンドのみの施設については、耐用年数の考え方が当てはまらないことから、経過年数による大規模改修や更新は考慮しないこととします。

大船渡市公共施設等総合管理計画(抄)

〔参考〕 将来更新費用の推計方法

(3) 耐用年数・更新の考え方

○ 公共建築物及びインフラの耐用年数及び更新期間は以下のとおりです。

表 15 耐用年数と更新期間

区分		耐用年数	更新期間
①公共建築物	大規模改修	30 年	2年
	更新(建て替え)	60 年	10 年

評価項目の中でも、「法令適合性」、「安全対策」、「屋外施設の状況」については、施設の維持管理を行う中で改善を図ることが容易であり、施設の劣化度合やライフサイクルコストの推計に大きく影響を与える「安全性」と「機能性」に重点を置いて、総合的に評価しました。

方向性等については、図 22（16 ページ）に基づき、安全性・機能性評価で「良」となった施設を「維持」とし、「劣」となった施設については、経済性評価に移行します。

表 8 安全性・機能性評価結果

類型	施設名	評価項目							評価結果	方向性等
		経過 年数	安全性	機能性	法令 適合性	安全対策	屋外施設 の状況	状況		
(7) グラ ウン ド	市営球場	56年	B	C	—	B	C	・ 市内のスポーツ施設で、最も年数が経過した施設である。 ・ バックネットや内野フェンス等、一部劣化している部分については、今後の定期的な観察が必要。 ・ 照明設備の不備や駐車場不足等多くの課題を抱えている。	劣	経済性評価へ
	田中島グラウンド	33年	—	—	—	B	C	・ 必要最低限の安全対策はなされている。 ・ フェンスの高さ等、改善の余地がある。	良	維持
	赤崎グラウンド	6年	A	A	—	B	B	・ 市内スポーツ施設で、最も新しい施設である。 ・ 災害対策には対応していないものの、スポーツ施設としての機能は十分に有している。	良	維持
	三陸総合運動公園	29年	B	C	—	B	C	・ ダッグアウト部分の躯体の劣化による雨漏りが問題となっている。 ・ グラウンドの状態は良好である。	良	維持
	山村広場	35年	B	C	—	B	C	・ 管理棟に経年劣化が見られるものの、緊急を要する修繕は見込まれていない。 ・ グラウンドの屋根付きベンチに劣化が見られる。	良	維持
	盛川河川敷公園多目的広場	38年	—	—	—	B	C	・ グラウンドの状態は良好である。 ・ 観覧席や熱中症対策のひさしが設置されていない。	良	維持
	盛川河川敷公園少年野球場	35年	—	—	—	B	C	・ グラウンドの状態は良好である。 ・ 観覧席や熱中症対策のひさしが設置されていない。	良	維持
(3) 体 育 館	大船渡市民体育館	42年	C	B	A	B	—	・ 一部雨漏りが発生しているほか、内部配管に劣化が見られる。 ・ 法令に従って、定期報告等なされている。 ・ 必要な安全対策は、おおむねなされている。	良	維持
	三陸 B & G 海洋センター	30年	B	B	A	B	—	・ 体育館としての機能に大きな問題はない。 ・ 法令に従って、定期報告等なされている。	良	維持
	三陸体育館	45年	C	C	—	B	—	・ 床板等に劣化が見られる。 ・ 照明設備の照度が不足している。	劣	経済性評価へ
(2) コ ー ト テ ニ ス	市民テニスコート	35年	B	B	—	B	B	・ 経年劣化が見られるものの、緊急を要する修繕は見込まれていない。 ・ 利用頻度は高いが、コートの状態は良好である。	良	維持
	三陸総合運動公園 テニスコート	29年	—	—	—	B	C	・ フェンスの設置等必要な安全対策はなされている。 ・ コートに一部劣化が見られる。	良	維持
(2)他 施 設 の	市民弓道場	38年	B	B	—	B	—	・ 経年劣化が見られるものの、緊急を要する修繕は見込まれていない。 ・ 防矢ネットの設置等必要な安全対策はなされている。	良	維持
	三陸 B & G 海洋センター プール	30年	C	C	—	B	—	・ 上屋のビニールに劣化が見られる。 ・ ボイラーやろ過機等に不具合が多く見られる。	劣	経済性評価へ

(2) 経済性評価

安全性・機能性評価で「劣」と評価された施設について、表 9 の評価基準に基づき「改善コスト」、「維持管理コスト」及び「収入」の項目ごとに評価を行い、表 10 の評価の考え方にに基づき、「良」又は「劣」の評価を行いました。

評価結果は、表 11 のとおりです。

表 9 経済性の評価基準

評価基準	評価
<ul style="list-style-type: none"> 10 年以内に改善コスト(大規模修繕又は建替え)を必要としない。 維持管理コストが、毎年減少を続けている。 維持管理コストに占める収入の割合が、100%を上回っている。 	A
<ul style="list-style-type: none"> 10 年以内に改善コスト(大規模修繕)を必要とするが、40 年以内に改善コスト(建替え)を必要としない。 維持管理コストが、減少傾向にある。 維持管理コストに占める収入の割合が、50%を上回っている。 	B
<ul style="list-style-type: none"> 10 年以内に改善コスト(大規模修繕)を必要とし、かつ、40 年以内に改善コスト(建替え)を必要とする。 維持管理コストが、増加傾向にある。 維持管理コストに占める収入の割合が、50%を下回っている。 	C
<ul style="list-style-type: none"> 10 年以内に改善コスト(建替え)を必要とする 維持管理コストが、毎年増加を続けている。 維持管理コストに占める収入の割合が、10%を下回っている。又は収入がない。 	D

表 10 経済性評価の考え方

考え方	評価
<ul style="list-style-type: none"> 改善コスト、維持管理コストの発生が少ない。 収入が多く、今後も施設利用が見込める。 維持管理コストが多く、収入も少ない施設であるが、維持管理・収入の運用面での見直しの可能性がある。 	良
<ul style="list-style-type: none"> 改善コスト及び維持管理コストが多く、収入も少ない施設で、維持管理・収入の運用面での見直しの可能性がない。 相対的、若しくは目標値に対して、著しく状況が悪い。 	劣

表 11 経済性評価結果

施設名	評価項目				評価結果	方向性
	改善コスト	維持管理コスト	収入	状況		
市営球場	D	C	D	<ul style="list-style-type: none"> 10 年以内に建替えが必要となる施設である。 維持管理コストに占める収入の割合が極めて低い。 	劣	改廃
三陸体育館	C	C	D	<ul style="list-style-type: none"> 10 年以内に大規模改修が必要となる施設である。 施設利用料収入がほぼない。 	劣	改廃
三陸 B & G 海洋センタープール	C	C	C	<ul style="list-style-type: none"> 近年は維持管理コストが増加傾向にある。 維持管理コストに占める収入の割合が 50%を下回っている。 	劣	改廃

(3) 耐震性評価

施設の今後のあるべき方向性が、「維持」又は「改善」とされた施設について、以下及び図 24 の評価の流れにより、耐震性を評価します。

評価結果は、表 12 のとおりです。

- ① 「耐震性に問題ない」とする施設
 - ・ 新耐震基準（昭和 56 年 6 月以降）により設計されたもの
 - ・ 耐震診断の結果、補強の必要なしと診断されたもの
 - ・ 耐震改修により補強が完了したもの
- ② 「耐震性に問題あり」とする施設
 - ・ 設計時の適用基準が未確認のもの
 - ・ 耐震診断が必要であるが、未実施のもの
 - ・ 耐震診断で改修が必要と診断された施設のうち、補強が未施工のもの

図 24 耐震性評価の流れ

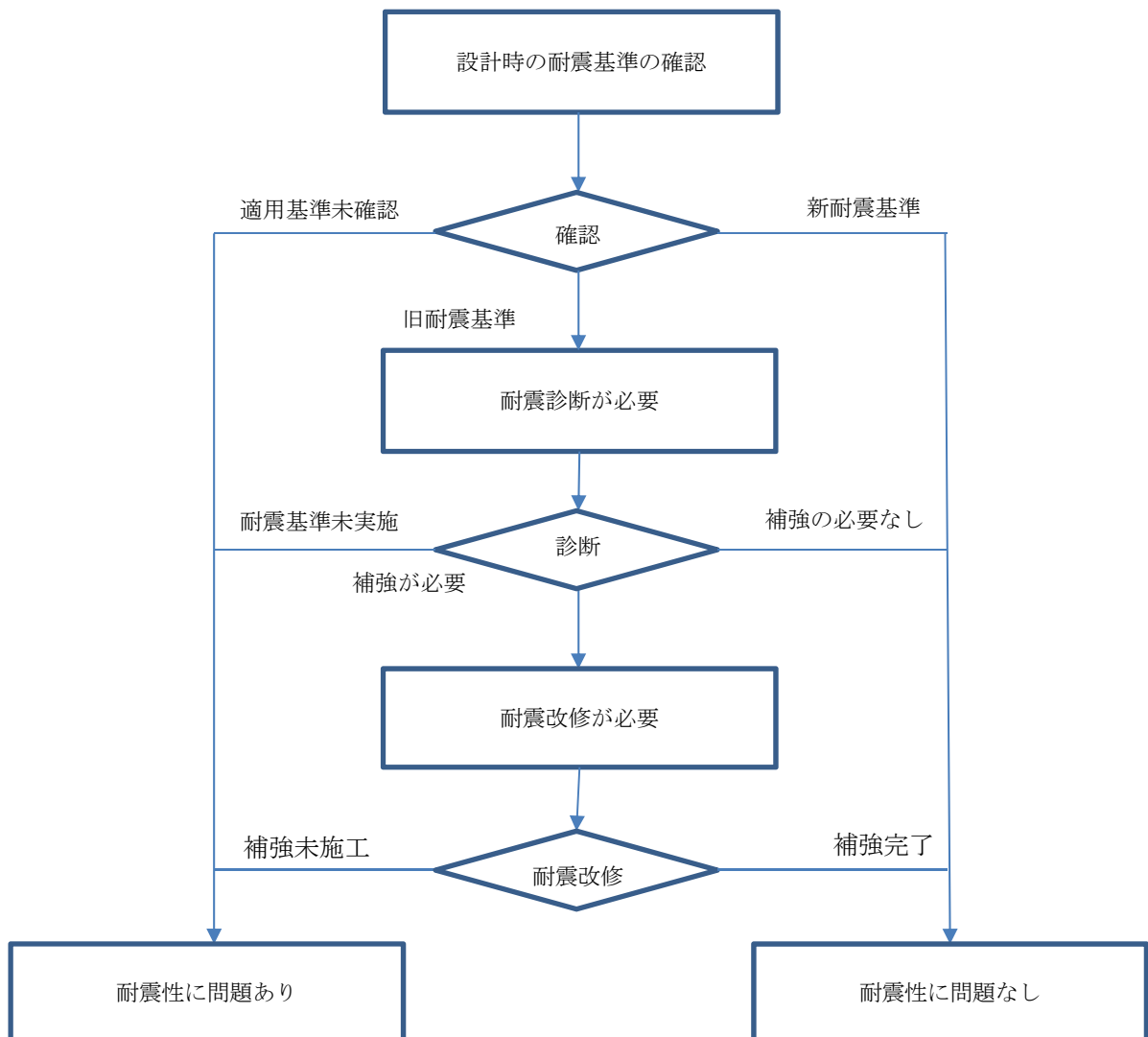


表 12 耐震性評価結果

類型	施設名	方向性	耐震診断	耐震性
グラウンド (7)	市営球場	改廃	—	
	田中島グラウンド	維持	対象外※1	対象外
	赤崎グラウンド	維持	不要※2	問題なし
	三陸総合運動公園	維持	不要	問題なし
	山村広場	維持	不要	問題なし
	盛川河川敷公園多目的広場	維持	対象外	対象外
	盛川河川敷公園少年野球場	維持	対象外	対象外
体育館 (3)	市民体育館	維持	実施済	問題なし
	三陸B & G 海洋センター	維持	不要	問題なし
	三陸体育館	改廃	—	
テニスコート (2)	市民テニスコート	維持	不要	問題なし
	三陸総合運動公園テニスコート	維持	対象外	対象外
その他施設 (2)	市民弓道場	維持	不要	問題なし
	三陸B & G 海洋センタープール	改廃	—	

※1 建築物のないグラウンドのみの施設については、耐震診断の対象外とした。

※2 建築物を有する施設のうち、新耐震基準年(昭和 56 年)以降に整備された施設については、耐震診断を不要とした。

3 施設の整備手法

施設の整備手法の検討に当たっては、図 25 の考え方によることとします。施設の今後のあるべき方向性と耐震性評価の結果によって、表 13 のとおり整備手法が区分されます。

図 25 施設の整備手法の考え方

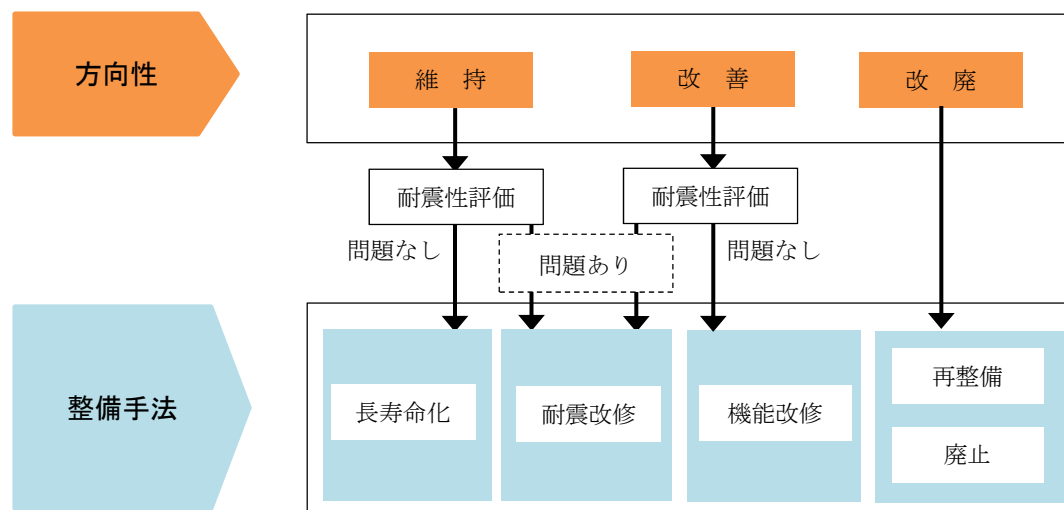


表 13 現況評価（１次評価）における施設の方向性及び耐震性評価の結果に基づく整備手法とその概要

方向性	耐震性評価の結果	整備手法	内容
維持	耐震性に問題なし	長寿命化	計画的に改修等の保全を行い、現在の施設をより長く使用する。
	〃 に問題あり	耐震改修	地震に対する安全性向上を目的に改修する。
改善	耐震性に問題なし	機能改修	経年劣化への対応を目的に改修する。
	〃 に問題あり	耐震改修	地震に対する安全性向上を目的に改修する。
改廃	耐震性評価不要	再整備	現状の施設を解体し、現地若しくは別の敷地に新たに施設を整備する。
		廃止	施設を解体・撤去する。

4 現況評価（１次評価）の結果

本市が保有するスポーツ施設の現況評価（１次評価）の結果は、表 14 のとおりです。

表 14 現況評価（１次評価）結果

類型	施設名	安全性・機能性評価							経済性評価				施設の方向性	耐震性評価	整備手法
		経過 年数	安全性	機能性	法令 適合性	安全対策	屋外施設の 状況	評価結果	改善コスト	維持管理 コスト	収入	評価結果			
(7)	市営球場	56年	B	C	—	B	C	劣	D	C	D	劣	改廃	—	再整備又は 廃止
	田中島グラウンド	33年	—	—	—	B	C	良	—	—	—	—	維持	対象外	長寿命化
	赤崎グラウンド	6年	A	A	—	B	B	良	—	—	—	—	維持	問題なし	長寿命化
	三陸総合運動公園	29年	B	C	—	B	C	良	—	—	—	—	維持	問題なし	長寿命化
	山村広場	35年	B	C	—	B	C	良	—	—	—	—	維持	問題なし	長寿命化
	盛川河川敷公園 多目的広場	38年	—	—	—	B	C	良	—	—	—	—	維持	対象外	長寿命化
	盛川河川敷公園 少年野球場	35年	—	—	—	B	C	良	—	—	—	—	維持	対象外	長寿命化
(3)	大船渡市民体育館	42年	C	B	A	B	—	良	—	—	—	—	維持	問題なし	長寿命化
	三陸B＆G海洋センター	30年	B	B	A	B	—	良	—	—	—	—	維持	問題なし	長寿命化
	三陸体育館	45年	C	C	—	B	—	劣	C	C	D	劣	改廃	—	再整備又は 廃止
(2)	市民テニスコート	35年	B	B	—	B	B	良	—	—	—	—	維持	問題なし	長寿命化
	三陸総合運動公園 テニスコート	29年	—	—	—	B	C	良	—	—	—	—	維持	対象外	長寿命化
施設 の 他	市民弓道場	38年	B	B	—	B	—	良	—	—	—	—	維持	問題なし	長寿命化
	三陸B＆G海洋センター プール	30年	C	C	—	B	—	劣	C	C	C	劣	改廃	—	再整備又は 廃止

V スポーツ施設の環境評価（２次評価）

1 個別施設の基本方針に関する検討

今後のスポーツ施設のあり方等を検討するに当たり、施設ごとの現況評価（１次評価）にとどまらず、図 26 のとおり、現況評価で施設の方向性が「改善」又は「改廃」とされた施設については、政策的な優先度を評価した上で基本方針を定めます。

また、現況評価で方向性が「維持」とされた施設についても、必要性や利用状況、市民ニーズ、経済性等を考慮した上で、基本方針を定めます。

なお、基本方針の考え方は、表 15 のとおりです。

図 26 環境評価（２次評価）の流れ

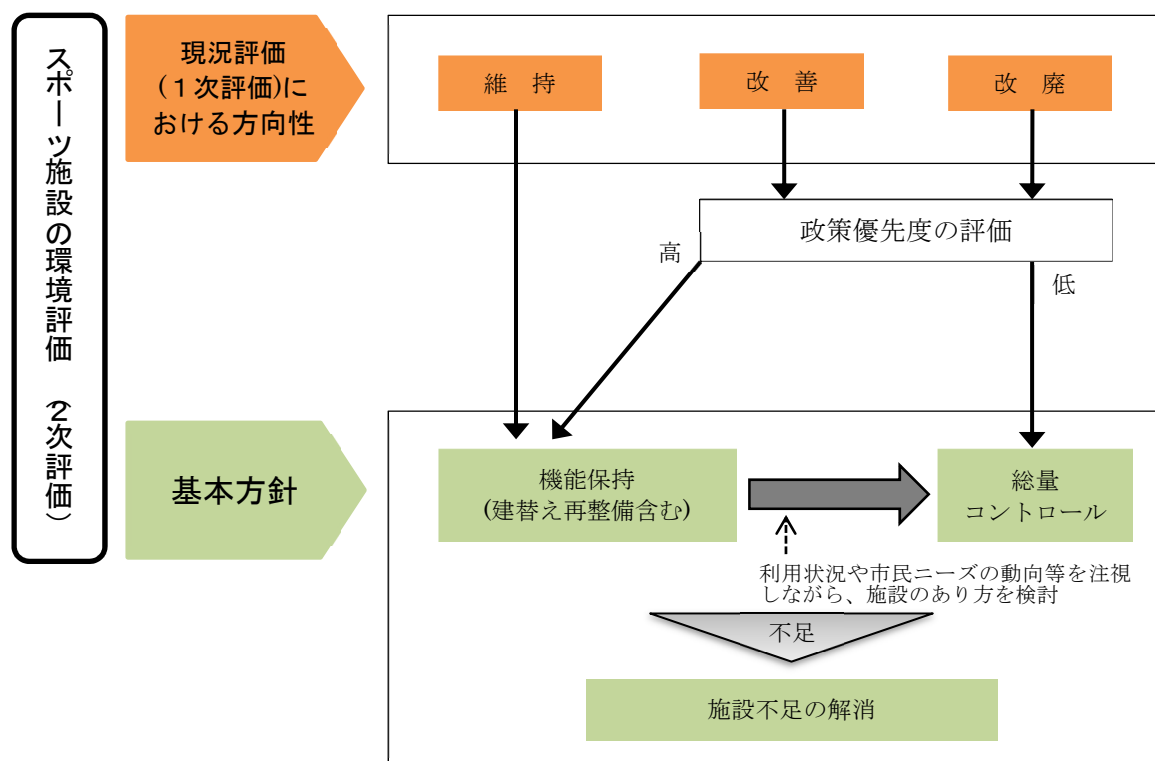


表 15 基本方針の考え方

基本方針	内容
機能保持 （建替え再整備）	現在の施設の機能を保持する。老朽化やそれに伴う維持管理費の増加に対応できるよう、計画的な対応方針を施設ごとに検討する。老朽化が激しいものについては、建替え再整備の時期や方法について検討する。
総量コントロール	将来的に維持管理し続けることができない施設について、廃止や転用の時期、方法について検討する。
施設不足の解消	スポーツ施設が不足している状態である場合、利用可能なスポーツ施設を増やすことを目指す。

(1) 政策優先度の評価

現況評価（１次評価）において、施設の方向性が、「改廃」とされた３つの施設について、表 16 の考え方にに基づき、政策優先度について、総合的に「高」又は「低」の評価を行いました。

評価結果は、表 17 のとおりです。

表 16 政策優先度評価の考え方

考え方	評価
<ul style="list-style-type: none"> 施設利用が維持又は増加傾向にある。 現在の施設利用者の満足度が高い。 運営や施設機能の向上により、大幅に利用状況が改善される見込みがある。 障害者スポーツが、盛んに行われている。 施設の希少性が高い。 整備目的が明確で、目的に合致した利用が継続的に行われている。 地域防災計画において、災害拠点や避難施設としての指定されており、代替できる施設がない。 	高
<ul style="list-style-type: none"> 施設利用が減少傾向にある。 現在の施設利用者の満足度が低い。 特定の団体が利用し、実利用者が少ない。 周辺の人口動態等を踏まえると、運営や施設機能の向上を図っても利用状況の改善の見込みがない。 整備目的や施設内容と利用実態が整合していない。 学校開放等の既存施設の活用により、現在の利用を代替できる。 地域防災計画において、災害拠点や避難施設としての指定されていない。若しくは、指定されているが、近隣に代替できる施設がある。 	低

表 17 政策優先度評価結果

施設名	政策優先度	判断理由
市営球場	高	本市における唯一の専用野球場であり、駐車場の不足、夜間照明の未整備等の課題はあるが、希少性が高い施設であるため、廃止することは難しい。
三陸体育館	低	大船渡市スポーツ施設条例に定めるスポーツ施設であるが、利用者は固定化している。実際には、隣接の吉浜小学校の学校教育活動に広く利用されていることから、スポーツ施設としてより、学校施設としての優先度が高い。
三陸 B & G 海洋センタープール	低	市内には、通年で稼働する公営の温水プールや、民間企業が経営するプール併設型のスポーツ施設があるため希少性が低く、機能向上を図ったとしても、大幅に利用状況が改善される見込みがない。

(2) 基本方針の決定

現況評価（１次評価）において施設の方向性を「維持」とした施設、また、「改廃」としたものの政策優先度が高いと評価した施設については、基本方針を「機能保持」としますが、これらの施設のうち、市民テニスコートと田中島グラウンドについて、利用状況や維持管理費、使用料収入の状況、市民ニーズの動向、利用拡大の可能性等の観点から、施設のあり方をさらに検討し、基本方針を表 18（30 ページ）のとおりとしました。

- ・ 市民テニスコートについては、利用日数に基づく施設稼働率が、令和元年度で 94%を超えており、利用料収入で維持管理費を賄うことができている唯一の施設です。近隣自治体を含めて、既存施設や代替施設を活用しても施設が不足することが予想されるとともに、市外からの利用者も多く訪れている実績等を考慮し、「機能保持」となる基本方針を、「施設不足の解消」へ移行することとします。
- ・ 田中島グラウンドについては、利用状況が低調に推移していることと、市民テニスコートに隣接している立地環境を踏まえ、グラウンドとしての利用を見直し、市民テニスコートを拡張して利用を図ることとして、基本方針を「機能保持」から「総量コントロール」へ移行することとします。

また、現況評価（１次評価）で施設の方向性を「改廃」とした三陸体育館と三陸 B & G 海洋センタープールについて、次に掲げる理由から、基本方針を「総量コントロール」としました。

- ・ 三陸体育館については、スポーツ施設としてより、学校施設としての優先度が高い現状にあるため。
- ・ 三陸 B & G 海洋センタープールについては、機能性に多くの課題を抱えるとともに、改修にも多額の費用が見込まれること、また、貴重な公営プールであるものの、機能向上による利用状況の改善が見込めないため。

表 18 基本方針検討結果

類型	施設名	現況評価 (1次評価)に おける方向性	政策優先度	基本方針
			理由	
グラウンド (7)	市営球場	改廃	高 駐車場不足、夜間照明の未整備等 利便性に問題があるが、希少性が高 く代替施設もない。	機能保持
	田中島グラウンド	維持		機能保持 →総量コントロール
	赤崎グラウンド	維持		機能保持
	三陸総合運動公園	維持		機能保持
	山村広場	維持		機能保持
	盛川河川敷公園多目的広場	維持		機能保持
	盛川河川敷公園少年野球場	維持		機能保持
体育館 (3)	市民体育館	維持		機能保持
	三陸B&G海洋センター	維持		機能保持
	三陸体育館	改廃	低 スポーツ施設としてより、学校施 設としての政策優先度が高い。	総量コントロール
テニスコート (2)	市民テニスコート	維持		機能保持 →施設不足の解消
	三陸総合運動公園テニスコート	維持		機能保持
その他施設 (2)	市民弓道場	維持		機能保持
	三陸B&G海洋センタープール	改廃	低 市内に通年稼働するプールがあ るため希少性が低く、機能向上によ る利用状況の改善が見込めない。	総量コントロール

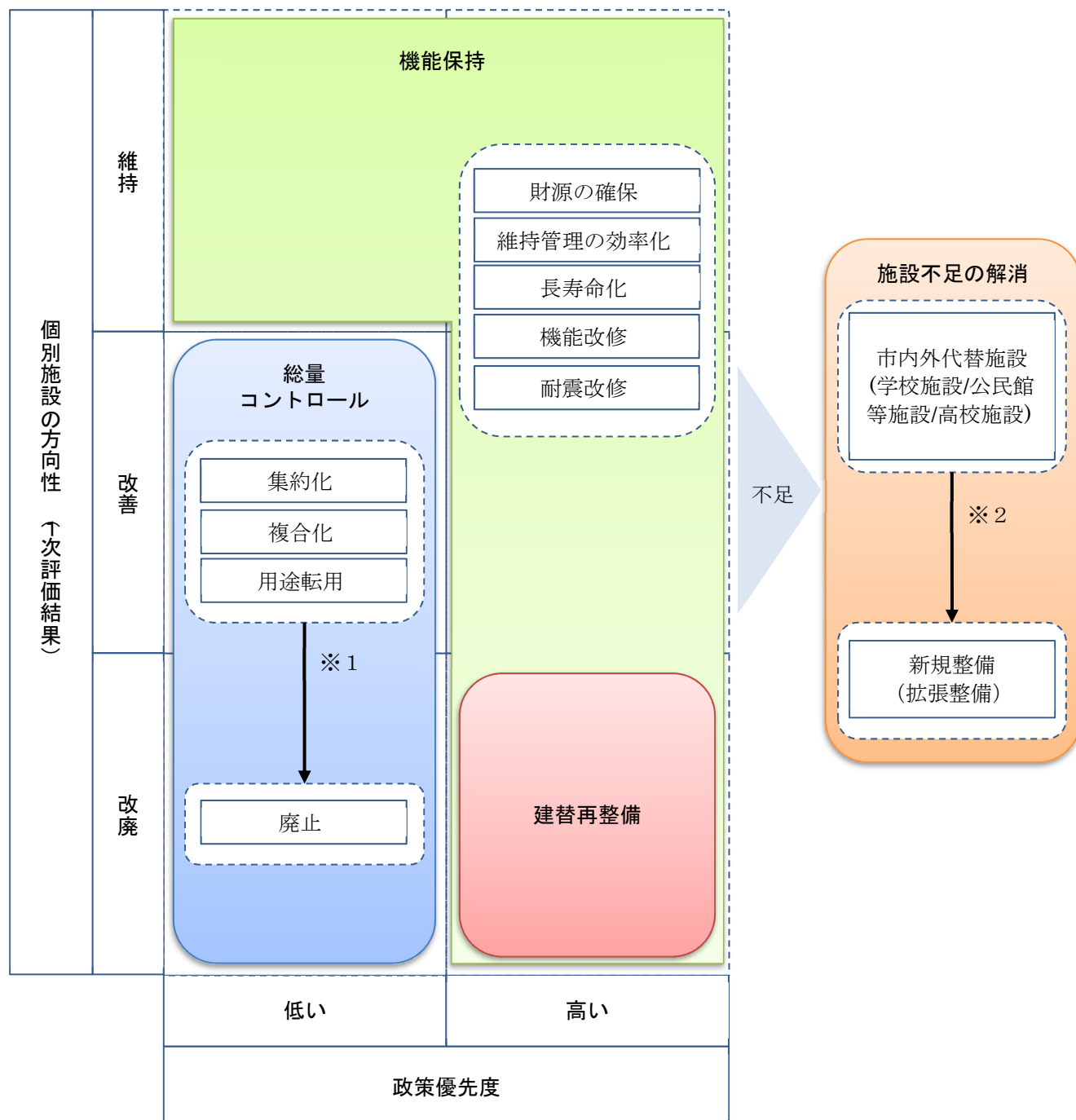
2 適用手法（基本方針ごとの対応手法）の検討

表 18 のスポーツ施設の基本方針に基づき、個別に適用可能な手法を検討します。

適用可能な手法の検討は、図 27 のとおり、現況評価（1 次評価）と政策優先度を 2 軸とするマトリクスを踏まえ、施設ごとに行います。

また、基本方針が「総量コントロール」や「施設不足の解消」における適用可能な手法は、施設の特徴や稼働率、利用の実態等を勘案して検討します。

図 27 スポーツ施設の基本方針（2 次評価）のマトリクス



(1) 機能保持

基本方針「機能保持」における適用手法の考え方は、表 19 のとおりです。

適用手法のうち、「長寿命化」「機能改修」「耐震改修」については、現況評価（１次評価）における「施設の方向性」の結果に基づき選択します。

現況評価（１次評価）において、方向性が「維持」となった施設については、ライフサイクルコストの縮減を視野に入れて維持する施設として、適用手法を「長寿命化」とします。

また、現況評価（１次評価）で「改廃」となった施設のうち、政策優先度が高い市営球場は、「建替え再整備」とします。

表 19 「機能保持」の適用手法

手法	内容
財源の確保	地方公共団体の財源以外で財源を確保する。
維持管理の効率化	効率的な運営方法や管理方法を取り入れる。
長寿命化 (計画的保全)	建物の耐用年数を定め、その期間、適切な施設の保全が行われるよう計画的な対応を行う。
機能改修	経年劣化や社会的劣化に対応した改修を行う。
耐震改修	建物の耐震性を確保するために改修を行う。
建替え再整備	同等の機能を有する施設を整備する。

(2) 総量コントロール

基本方針「総量コントロール」における適用手法の考え方は、表 20 のとおりです。

現況評価（１次評価）における個別施設の方向性が「改廃」となった施設のうち、三陸体育館については、学校体育館としての機能が強く求められており、スポーツ施設としての優先度が低いことから、「用途転用」とします。

田中島グラウンドについては、主な利用競技であるソフトボールや少年野球での利用見込みが少ないことから、市民テニスコートへの「用途転用」とします。

三陸B&G海洋センタープールについては、施設の稼働率や利用実態等から、今後も利用の増加が見込めないため、「廃止」とします。

表 20 「総量コントロール」の適用手法

手法	内容
集約化	既存の同種の施設を統合する。
複合化	スポーツ施設以外の施設の機能を有した施設と複合化する。
用途転用	他の施設として利用する。
廃止	施設を解体・撤去する。

(3) 施設不足の解消

基本方針「施設不足の解消」における適用手法の考え方は、表 21 のとおりです。

現況評価（1次評価）で「維持」となった施設のうち、施設の特徴や稼働率、利用の実態等を勘案し、代替施設となり得る施設が周辺に存在せず、かつ、市内外の代替施設を活用してもニーズに対応しきれない市民テニスコートについては、「新規整備（拡張整備）」を検討します。

表 21 「施設不足の解消」の適用手法

手法	内容
市内の代替施設の活用	市内の学校体育施設や公民館等のスポーツに活用できる施設、民間のスポーツ施設等をスポーツ環境として活用する。
市外の代替施設の活用	隣接する地方公共団体の施設や民間施設を市民のスポーツ施設として活用する。
新規整備 (拡張整備)	施設を新規又は拡張して、整備する。

3 環境評価（２次評価）の結果

現況評価（１次評価）の結果を受け、政策優先度等も加味した環境評価（２次評価）の結果は、表 22 のとおりです。

表 22 環境評価（２次評価）結果

類型	施設名	施設の方向性 (１次評価)	整備手法	政策優先度 理由	基本方針	適用手法
グラウンド (7)	市営球場	改廃	再整備 又は廃止	高 駐車場不足、夜間照明の 未整備等利便性に問題が あるが、希少性が高く代替 施設もない。	機能保持	建替え 再整備
	田中島グラウンド	維持	長寿命化		機能保持 →総量コントロール	用途転用
	赤崎グラウンド	維持	長寿命化		機能保持	長寿命化
	三陸総合運動公園	維持	長寿命化		機能保持	長寿命化
	山村広場	維持	長寿命化		機能保持	長寿命化
	盛川河川敷公園多目的広場	維持	長寿命化		機能保持	長寿命化
	盛川河川敷公園少年野球場	維持	長寿命化		機能保持	長寿命化
体育館 (3)	市民体育館	維持	長寿命化		機能保持	長寿命化
	三陸B&G海洋センター	維持	長寿命化		機能保持	長寿命化
	三陸体育館	改廃	再整備 又は廃止	低 スポーツ施設としての政 策優先度より、学校施設と しての優先度が高い。	総量コントロール	用途転用
テニスコート (2)	市民テニスコート	維持	長寿命化		機能保持 →施設不足の解消	新規整備 (拡張整備)
	三陸総合運動公園テニスコート	維持	長寿命化		機能保持	長寿命化
その他施設 (2)	市民弓道場	維持	長寿命化		機能保持	長寿命化
	三陸B&G海洋センタープール	改廃	再整備 又は廃止	低 市内に通年稼働するプー ルがあるため希少性が低 く、機能向上による利用状 況の改善が見込めない。	総量コントロール	※存廃につ いて検討

Ⅵ スポーツ施設の評価結果（全体）

施設ごとの現況評価（１次評価）及び環境評価（２次評価）の結果は、表 23 のとおりです。

表 23 施設評価一覧

類型	施設名	整備年次	構造	延床面積	現況評価（１次評価）						環境評価（２次評価）		
					経過年数	安全性・機能性 評価	経済性 評価	施設の方向性	耐震性評価	整備手法	政策優先度	基本方針	適用手法
グラウンド (7)	市営球場	S 39	R C 造	12, 507㎡	56年	劣	劣	改廃	—	再整備又は 廃止	高	機能保持	建替え再整備
	田中島グラウンド	S 62	—	4, 894㎡	33年	良	—	維持	対象外	長寿命化	—	機能保持 →総量コントロール	用途転用
	赤崎グラウンド	H26	S 造	11, 592㎡	6年	良	—	維持	問題なし	長寿命化	—	機能保持	長寿命化
	三陸総合運動公園	H3	—	15, 480㎡	29年	良	—	維持	問題なし	長寿命化	—	機能保持	長寿命化
	山村広場	S 60	—	14, 800㎡	35年	良	—	維持	問題なし	長寿命化	—	機能保持	長寿命化
	盛川河川敷公園 多目的広場	S 57	—	10, 762㎡	38年	良	—	維持	対象外	長寿命化	—	機能保持	長寿命化
	盛川河川敷公園 少年野球場	S 60	—	7, 540㎡	35年	良	—	維持	対象外	長寿命化	—	機能保持	長寿命化
体育館 (3)	大船渡市民体育館	S 53	S R C 造	3, 878㎡	42年	良	—	維持	問題なし	長寿命化	—	機能保持	長寿命化
	三陸 B & G 海洋センター	H2	R C 造	1, 919㎡	30年	良	—	維持	問題なし	長寿命化	—	機能保持	長寿命化
	三陸体育館	S 50	R C 造	992㎡	45年	劣	劣	改廃	—	再整備又は 廃止	低	総量コントロール	用途転用
テニスコート (2)	市民テニスコート	S 60	S 造	3, 392㎡	35年	良	—	維持	問題なし	長寿命化	—	機能保持 →施設不足の解消	新規整備 (拡張整備)
	三陸総合運動公園 テニスコート	H3	—	1, 592㎡	29年	良	—	維持	対象外	長寿命化	—	機能保持	長寿命化
その他施設 (2)	市民弓道場	S 57	S 造	791㎡	38年	良	—	維持	問題なし	長寿命化	—	機能保持	長寿命化
	三陸 B & G 海洋センタープール	H2	S 造	1, 013㎡	30年	劣	劣	改廃	—	再整備又は 廃止	低	総量コントロール	※存廃について検討